

平成17年度（2005年）

事業報告書

財団法人 日本テニス協会

平成17年度 主要会議報告

平成17年

3月30日(水)	第1回	理事会	岸記念体育会館4階会議室
4月12日(火)	第1回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
5月10日(火)	第2回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月23日(月)	第2回	理事会	岸記念体育会館4階会議室
5月23日(月)	第1回	評議員会	岸記念体育会館5階会議室
6月24日(金)	第3回	常務理事・本部長会議	代々木第二体育館会議室
7月21日(木)	第4回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
8月23日(火)	第5回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
9月16日(金)	第6回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
10月20日(木)	第7回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
11月15日(火)	第8回	常務理事・本部長会議	有明コロシアム2階会議室
12月2日(金)	第9回	常務理事・本部長会議	代々木第二体育館会議室

平成18年

1月12日(木)	第10回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
2月3日(金)	第11回	常務理事・本部長会議	オリンピック記念青少年総合センター
3月15日(水)	第12回	常務理事・本部長会議	岸記念体育会館4階会議室
3月30日(木)	第3回	理事会	岸記念体育会館4階会議室
3月30日(木)	第2回	評議員会	岸記念体育会館5階会議室

以上

財団法人 日本テニス協会 平成17年度事業報告書

自平成17年4月1日至平成18年3月31日

1. テニスの普及及び指導

- (1) 全日本テニス選手権大会キッズジュニアクリニックの開催【選手委員会】
- (2) テニスをする場と機会の確保プロジェクト【企画委員会】
- (3) テニスファン〔テニスサポーター〕、テニス選手、マスコミ・メディア、スポンサーの
為のサービス活動を行なうと同時に「観るテニス」の振興と支援活動【プロモーション
委員会】
- (4) 「テニスの日」イベントの実施【普及委員会】
- (5) キッズテニスの普及【普及委員会】
- (6) ITN システムの普及の協力【普及委員会】
- (7) テニス用品メーカーへの環境保全に関するアンケート調査の実施【環境委員会】
- (8) 砂入り人工芝コート of 廃棄に関する調査【環境委員会】
- (9) 使用済みのボールのリユースと NPO グローバルスポーツアライアンスの紹介【環境委
員会】
- (10) JOC スポーツ環境委員会との連携【環境委員会】
- (11) 環境レポート発行の準備【環境委員会】
- (12) 幼稚園・小学校マナーキッズテニスの積極的な普及【幼稚園・小学校特別プロジェクト】
- (13) 第1回全国小学校別団体対抗戦の開催【幼稚園・小学校特別プロジェクト】

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテ ニス競技会の後援、公認

- (1) 国内トーナメント（一般大会）の円滑な運営と管理【国内大会委員会】
- (2) 新ルールブックの発刊・販売ならびにルールの周知徹底【国内大会委員会】
- (3) 新しいカテゴリーの公認【国内大会委員会】
- (4) 第60回国民体育大会〔岡山県〕テニス競技の運営【国体委員会】
- (5) 第29回全日本都市対抗テニス大会〔兵庫県〕の開催準備【国体委員会】
- (6) 第29回全日本都市対抗テニス大会〔兵庫県〕の開催【国体委員会】
- (7) 第66回国民体育大会〔山口県〕正規視察の実施【国体委員会】
- (8) 日本体育協会国体委員会への参加【国体委員会】
- (9) 各種大会へレフェリー、審判員の派遣【審判委員会】
- (10) 第20回テニス日本リーグの開催【実業団委員会】
- (11) 第19回全国実業団対抗テニストーナメント〔A大会〕の開催【実業団委員会】
- (12) 第44回全国実業団対抗テニス大会〔ビジネスパル・テニス〕の開催【実業団委員会】
- (13) 第67回全日本ベテランテニス選手権大会の開催【ベテラン委員会】
- (14) 第29回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力【ベテラン委員会】
- (15) 47都道府県協会主催のベテラン JOPE大会の推進と運営協力【ベテラン委員会】
- (16) 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力【ベテラン委員会】
- (17) ベテラン JOP グレード FGH 大会実施に伴う全国規模による諸準備の推進【ベテラン委
員会】

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに 外国からの選手等の招聘

- (1) 各種国際大会の主催ならびに後援・公認【国際大会委員会】

- (2)各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘【国際大会委員会】
- (3)トーナメント改革の実施【国際大会委員会】
- (4)国際大会視察の実施【国際大会委員会】
- (5)国際大会ディレクター会議の開催【国際大会委員会】
- (6)各種大会へレフェリー、審判員の派遣【審判委員会】
- (7)国際ベテラン大会への選手派遣【ベテラン委員会】
- (8)AIG JAPAN OPEN 2005 の開催【ジャパンオープン委員会】
- (9)東アジア大会【10月29日～11月6日（マカオ）】への派遣【ナショナルチーム】
- (10)デビスカップ 2005 アジアオセアニアゾーングループ I プレーオフ 対タイ戦【7月15日～17日（大阪）】の開催【デビスカップチーム】
- (11)デビスカップ 2006 アジアオセアニアゾーングループ I 1回戦 対中国戦【2月10日～12日（大阪）】の開催【デビスカップチーム】
- (12)フェドカップ 2005 ワールドグループ II 1回戦チェコ戦【対チェコ戦4月23日～24日（プラハ）】への派遣【フェドカップチーム】
- (13)フェドカップ 2005 ワールドグループ II プレーオフ 対ブルガリア戦【7月9日～10日（東京）】の開催【フェドカップチーム】
- (14)ユニバシアード 2005 トルコ・イズミル大会【8月11日～20日トルコ・イズミール】への派遣【ユニバシアードチーム】
- (15)ジュニアデビスカップ 2005 アジア/オセアニア予選【5月2日～7日（フィリピン）】への派遣【ジュニアデビスカップチーム】
- (16)ジュニアフェドカップ 2005 アジア/オセアニア予選【5月4日～15日（タイ）】への派遣【ジュニアフェドカップチーム】
- (17)ジュニアフェドカップ 2005 世界大会【9月23日～10月5日（スペイン）】への派遣【ジュニアフェドカップチーム】
- (18)ワールドジュニア 2005 アジア/オセアニア予選【5月16日～22日（オーストラリア）】への派遣【ワールドジュニア男女チーム】
- (19)ワールドジュニア 2005 世界大会【8月8日～13日（オーストラリア）】への派遣【ワールドジュニア男女チーム】
- (20)トヨタジュニア遠征【6月22日～7月19日（アジア・オセアニア地域）【ジュニアチーム】
- (21)ジュニアグラندスラム遠征ならびに各種遠征（U18,U16,U14 含む）2005年3月～2006年3月【ジュニアチーム】

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

- (1)国際審判員・レフェリー養成事業の実施【審判委員会】
- (2)審判員・レフェリー養成事業ならびに審判講習会の実施【審判委員会】
- (3)審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善【審判委員会】
- (4)公認審判員・公認レフェリーの平成17年度更新登録者管理【審判委員会】
- (5)オリンピックへ向けて「発掘・育成・強化」コーチ養成及びテニス普及を担う指導者の資質の向上を目的とした事業の推進。【指導者育成委員会】

5. テニスの競技力向上

- (1)デビスカップ強化合宿の実施【デビスカップチーム】
- (2)フェドカップ強化合宿の実施【フェドカップチーム】
- (3)ユニバシアード強化合宿等の実施【ユニバシアードチーム】
- (4)ジュニア強化合宿の実施【ジュニアチーム】
- (5)ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施【ナショナルチー

ム】

- (6)オリンピック強化指定選手の認定【ナショナルチーム】
- (7)年齢別ジュニア特別強化指定選手制度の推進【強化システム委員会】
- (8)ジュニア国際大会に参加する選手を引率するコーチへの指導マニュアルの作成【強化システム委員会】
- (9)JTA ナショナル強化選手のスポーツ科学的サポート【スポーツ科学委員会】
- (10)地域ジュニア選手に対してのトレーニング・測定合宿の開催【スポーツ科学委員会】
- (11)ITF コーチワークショップへの参加【スポーツ科学委員会】
- (12)デ杯・フェド杯の戦術ならびにゲーム分析【スポーツ科学委員会】
- (13)JISS 委託研究事業の実施【スポーツ科学委員会】
- (14)トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立【スポーツ科学委員会】
- (15)ナショナルチームとの体力トレーニングに関する合同ミーティングの開催【スポーツ科学委員会】
- (16)ナショナル強化指定選手選定のための合宿へのサポート【スポーツ科学委員会】
- (17)地域ジュニア及び指導者強化合宿と地域トップとの懇談会【一貫指導体制推進委員会】
- (18)ブロックジュニア及び指導者強化合宿【一貫指導体制推進委員会】

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規定の制定並びにテニスランキングの作成

- (1)JTP・JOP ランキング作成と公表並びに年間テニス順位作成【国内大会委員会】
- (2)JTA ランキングシステムの創設【国内大会委員会】
- (3)ジュニア委員会が受け持っていた制度の見直しと設定【強化システム委員会】

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟（略称 I. T. F.）及びアジアテニス連盟（略称 A. T. F.）に加盟すること

- (1) 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達。【国際委員会】
- (2) (財)日本体育協会国体委員会への出席【国体委員会】
- (3) (財)日本体育協会、日本スポーツマスターズ特別委員会への出席【ベテラン委員会】
- (4)ITF コーチワークショップへの参加【スポーツ科学委員会】
- (5) (財)日本体育協会の公式会議に出席【指導者委員会】

8. 年鑑その他の刊行物の発行

- (1)ルールブック 2006 の発刊・販売ならびにルールの周知徹底【国内大会委員会】
- (2)ルールブック 2006 の発行【審判委員会】
- (3)JTA ニュースの編集と発行【広報委員会】
- (4)TENNIS PLAYERS GUIDE 2005 の編集と発行【広報委員会】

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

- (1)テニスに関わる用具の認定、公認または推薦【総務委員会】

10. テニス施設の管理運営

- (1) ナショナルトレーニングセンター設立に向けての環境の整備【強化システム委員会】

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- (1) 平成 17 年度 JTA 表彰の実施【総務委員会】
- (2) オリジナルコーチ奨励金授与【総務委員会】
- (3) 平成 17 年度選手報奨金授与の表彰実施【総務委員会】
- (4) 特別表彰の実施【総務委員会】
- (5) 諸規程の改定・新規作成【総務委員会】
- (6) 各種イベント後援申請等の審査【総務委員会】
- (7) 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催【選手委員会】
- (8) 全日本テニス選手権大会チャリティーオークションの開催【選手委員会】
- (9) プロフェッショナル選手の登録管理【選手委員会】
- (10) ナショナルチームに対するメディカルサポートの充実【医事委員会】
- (11) ドクター・トレーナーの派遣【医事委員会】
- (12) 選手の痙攣防止対策の立案・提言【医事委員会】
- (13) テニス障害の対策【医事委員会】
- (14) スポーツビジョン〔スポーツに必要な視覚能力〕の啓蒙と普及【医事委員会】
- (15) トレーナー業務の整備・充実【医事委員会】
- (16) 地域メディカルサポート体制の整備【医事委員会】
- (17) テニス医学情報の収集【医事委員会】
- (18) テニス障害の情報発信【医事委員会】
- (19) テニス医学に関する洋書の翻訳出版【医事委員会】
- (20) 「テニス資料館」設立に向けた広報活動ならびに史資料の収集・整理・活用【テニス料館準備委員会】
- (21) AIG ジャパンオープン開催時等に日本テニス資料展開催テニス料館準備委員会】
- (22) ホームページによる JTA 情報発信【広報委員会】
- (23) 動画配信サイト「TENNIS ONLINE」の運用開始【広報委員会】
- (24) メールマガジンの発信【広報委員会】
- (25) メディアメールの発信【広報委員会】
- (26) プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行【広報委員会】
- (27) プレスルームの運営【広報委員会】
- (28) 国内主要大会でのライブスコアシステムの構築と運用【IT企画委員会】
- (29) JTA 公式サイト選手向け情報、愛好家向け情報、ドナー向け情報、強化活動報告、一般向け情報の充実に向けてサーバの強化。JTA からの情報発信能力を向上し、充実した情報をリアルタイムで提供可能とする。【IT企画委員会】
- (30) テニス界活性化のための中長期的企画・立案【企画委員会】
- (31) JTA の収益拡大諸施策の立案【企画委員会】
- (32) スポーツマーケティング調査【企画委員会】
- (33) クラブ会員の増強と会員組織、運営体制の整備【クラブ JTA 推進委員会】
- (34) 地域におけるクラブ JTA サポートのお願い【クラブ JTA 推進委員会】
- (35) 商標登録の取得【幼稚園・小学校特別プロジェクト】
- (36) 体育授業としての開催【幼稚園・小学校特別プロジェクト】
- (37) 財団法人日本テニス協会倫理規程の作成ならびに制定【倫理委員会】
- (38) 有事における危機管理対策の実施【危機管理委員会】
- (39) WADA・JADA との関連【ドーピング判定委員会】
- (40) ドーピング検査陽性反応者発生時の対応【ドーピング判定委員会】
- (41) ドーピング検査の実施【ドーピングコントロール委員会】

(42) アンチ・ドーピング対策の実施【ドーピングコントロール委員会】

(43) アンチ・ドーピングの啓蒙【ドーピングコントロール委員会】

(44) その他、JTA 専門委員会活動と事業

平成17年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、広報委員会、選手委員会、医事委員会、国際委員会、テニス資料館準備委員会、IT企画委員会、国際大会委員会、国内大会委員会、審判委員会、国体委員会、実業団委員会、ベテラン委員会、ベテラン競技委員会、ベテランシステム委員会、企画委員会、プロモーション委員会、クラブ JTA 推進委員会、ジャパンオープン委員会、ナショナルチーム（オリンピック・デビスカップ・ジュニアデビスカップ・ワールドジュニア男子・フェドカップ・ジュニアフェドカップ・ワールドジュニア女子・ユニバーシアード）、強化システム委員会、スポーツ科学委員会、一貫指導体制推進委員会、指導者育成委員会、普及委員会、環境委員会、幼稚園・小学校特別プロジェクト、倫理委員会、危機管理委員会、ドーピング判定委員会、ドーピングコントロール委員会

以上

財団法人日本テニス協会 平成17年度 事業報告書

総務本部 総務委員会（委員長：橋口 健蔵）

1. テニスに関する用具の認定、公認

当該期間中に以下、公認・推薦申請（合計58社）を処理した。

- ① 公認：ボール7社9球
- ② 推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、インソール 計51社

2. JTA表彰

表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。

功労賞18名、企業賞16社、優秀団体賞1校、優秀選手賞1名、ジュニア大賞1名、優秀指導者賞1名、クラブ賞1社、メディア賞1社に対しては、平成17年5月30日（火）岸記念体育会館「スポーツマンクラブ」において表彰伝達式を行った。

3. オリジナルコーチの表彰

ジュニア育成・普及コーチ奨励金制度に基づき表彰を行った。

3名に対しては、平成17年11月14日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル3階アイリスにおいて表彰式を行った。

4. 特別表彰

表彰規程に基づき特別表彰として、引退した吉田友佳選手に対しその功績を称え、平成17年11月19日（土）全日本テニス選手権大会の会場にて表彰を行った。

5. 選手報奨金の授与

選手報奨金規定に基づき表彰者の選定を行った。

年間表彰者男子1名 女子9名 計10名に対して、および東アジア競技大会金メダル表彰者男子2名 女子3名 計5名に対しては、平成17年11月14日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテル3階アイリスにて報奨金の授与を行った。

6. 諸規程の新設・改定

諸規程の新設ならびに改定を、平成17年度中に合計2件行った。

7. 各種イベント後援申請等の審査

関東テニス協会から「第18回関東車いすテニス大会」の推奨申請をはじめとして、年間10イベントの後援、公認を審査し常務理事・本部長会議に上程した。

総務本部 広報委員会（委員長：八田 修孝）

広報委員会では今年度、下記項目を主な業務として活動いたしました。中でもJTAホームページ（動画サイト、ブログを含む）は、一般テニス愛好家を含め、日本テニス協会関連各位への情報発信として最大のツールと認識しています。そこで、サーバーの移行を含め大規模なリニューアルを致しましたが、動的コンテンツでは完成型にはほど遠く、よりいっそうのボリュームアップが求められています。私たちは日本テニス界でリーダーシップを持てるサイト構築を念頭に置き、より広範囲に活動する努力を続けたいと思います。ATPやWTAではコミュニケーションというセクションで活動していますが、これに倣い、我々広報委員会は、日本テニス協会（各本部、各委員会）から配信される多くの情報を、各地域・都道府県協会、選手、メディア、一般テニス愛好家の方々に様々な形で伝達すること、なかでも、日本テニス協会や日本選手とテニスファンとの間のパイプ役となることを最大のテーマとして活動します。

1. ホームページによるJTA情報発信

毎日5万強のアクセスがあるJTAホームページの質的な向上と維持管理に努めた。

利用者がよりわかりやすく、便利で、興味を持ってもらえるよう、また、最新でニーズにあった情報を提供できるよう、随時更新に務めた。4 大大会及び国別対抗戦、国内主要大会への記者派遣も含め、日本人選手の海外での活躍や、国内主要大会の報道も積極的に行った。

2. 動画配信サイト「TENNIS ONLINE」の運用開始

国内開催の主要大会を映像に収めインターネット配信を行う。取材・編集などに経費が掛かるため課金方式を採用（月額¥420-）。今まで映像として見ることのできなかつた全日本テニス選手権、日本リーグなど、国内大会の初回戦から、また一般愛好家に興味のあるダブルスなどを配信すると共に、ナショナルチームの練習を紹介するといったレッスンコンテンツも視野に入れ制作をおこない、配信を開始した。

3. メールマガジンの発行

メールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデ杯、フェド杯、全日本、AIG OPEN など主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。「2006 年 3 月末登録者は約 9500 名」

4. メディアメールの発信

報道関係者（新聞、テレビ、ラジオ、テニス専門誌等の媒体）に対し、効率の良い情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをより頻度を上げて配信した。従来の記者発表や記者クラブ掲示に加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。

5. JTA NEWS の発行

JTA NEWS をアニュアルレポートとして 8 月に発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は 1 万 1000 部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

6. テニスプレーヤーズガイドの発行

東京運動記者クラブ・テニス分科会のご協力により編集。マスコミ向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフや一般愛好者向けのガイドブックとして、1000 部を発行した。

7. プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行

フェド杯、全日本、AIG ジャパンオープン等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫した JTA ポリシーを入れる企画、編集で作成した。

8. プレスルームの運営

全日本選手権、AIG ジャパンオープン、デ杯、フェド杯など主要大会のプレスルームの管理運営を行った。今年度から運用した「ライブスコア」のコンテンツ部分のサポート。この他、大会のデイリープログラムやメディアガイドも責任編集。また選手入場時のプロフィールを作成。ホームページのコンテンツ更新を含め、円滑な情報発信を行えるように努力した。

総務本部 選手委員会（委員長：右近 憲三）

1. 全日本テニス選手権大会ジュニアクリニックの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成 17 年 11 月 20 日(日)、有明コロシアム・有明テニスの森公園テニスコートを使用して開催した。本年度より大会のタイトルスポンサーがニッケ（日本毛織株式会社）となり、恒例のジュニアクリニックも「ニッケジュニアクリニック」の名称で、系列の株式会社ニッケテニスドームとの協力を頂いた。参加者は 193 名。応募数 100 名に対し 2 倍の 198 名の応募があったが、ニッケテニスドームにスタッフを大勢サポートしていただき、応募ジュニア全員が参加可能となり、盛大にクリニックを行う事が出来た。

2. 全日本テニス選手権大会選手ミーティングの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成 17 年 11 月 14 日(月)ウェルカムパーティー終了後、東京ベイ有明ワシントンホテルにて開催した。選手は男子 26 名・女子 23 名、コーチ関係者 8 名が出席し、盛田会長、渡邊専務理事、矢澤トーナメント本部長、畠中トーナメント副本部長、藤井強化企画副本部長、中西大会ディレクター、右近選手委員長が列席した。選手からも活発な意見や質問が多く飛び出し、短時間ではあったが選手とのコミュニケーションを図る場となった。普段滅多に聞けない選手の考えを聞くことのできる貴重な機会であった。

3. 全日本テニス選手権大会チャリティーオークションの開催

全日本テニス選手権大会開催中の平成 17 年 11 月 19 日(土)～20 日(日)、選手から集めたグッズによるチャリティーオークションを行った。オークションは大盛況で、売上金を将来のテニス界を担うジュニア強化に寄付した。

4. プロフェッショナル選手の登録管理

(1) プロフェッショナル登録レベル分け、登録証の発行、新規プロフェッショナルの承認

平成 17 年度プロフェッショナル登録者…249 名 (平成 18 年 3 月 31 日付登録料納入者)
内、新規登録者……26 名

平成 17 年度プロフェッショナル登録料<合計> 249 名 1,465,000 円
10,000 円 × 44 名 = 440,000 円、5,000 円 × 205 名 = 1,025,000 円

レベル	トーナメントプロフェッショナルプレイヤー	ビスタプレイヤー	合計
男子	38	129	167
女子	46	36	82
合計	84	165	249

(2) アマチュア復帰申請に対する実績審査、承認

平成 17 年度アマチュア復帰者…2 名

総務本部 医事委員会 (委員長：別府 諸兄)

1. ナショナルチームに対するメディカルサポートの充実

(1) デ杯・フェド杯チームへのメディカルサポート

①フェド杯・ワールドグループ II 1 回戦・対チェコ戦 (試合・4 月 23 日～24 日) (チェコ共和国プラハ) については、チームオフィシャルドクターとして、金森章浩 Dr を派遣すると共に、チームオフィシャルトレーナーとして村木トレーナー部会長、アシスタントトレーナーとして茂木奈津子氏を派遣した。

②フェド杯・ワールドグループ II プレイオフ対ブルガリア戦については、事前の第一次合宿がジュニア選手を中心に、平成 17 年 6 月 29 日(水)～7 月 2 日(土)の 4 日間、国立スポーツ科学センターで行われたが、村木トレーナー部会長が 4 日間サポートメンバーとして参加し、初日 29 日には、「テニス選手のコンディショニング」につき講義と実務の指導を行った。又金森章浩 Dr はチーム帯同ドクターとして、同日「ドーピングについて」の講義を行った。また、3 日目の 7 月 1 日(金)にはメディカルチェックを行った。

試合は 7 月 9 日<土>～10 日<日>(有明コロシアム)に行われたが、チームオフィシャルドクターとして金森章浩 Dr、トーナメントドクターとして三谷玄弥 Dr を、チームオフィシャルトレーナーとして村木トレーナー部会長、アシスタントトレーナーとして茂木奈津子氏を派遣した。

なお、試合当日の後方支援病院として、東京慈恵会医科大学附属病院に依頼した。

③デ杯・アジアオセアニアゾーングループ I 2 回戦プレイオフ対タイ戦の事前合宿は、平成 17 年 7 月 11 日(月)から 13 日(水)の 3 日間なみはやドームで行われ、吉崎堅一 Dr により対応した。

また、中尾公一トレーナーが帯同した。

試合は7月15日<金>～17日(日)(なみはやドーム)にて行われたが、チームドクターとして奥平修三 Dr(7/14～17)、大会オフィシャルドクターとして赤池敦 Dr(7/16)と吉崎堅一 Dr(7/17)を派遣した。チームオフィシャルトレーナーとして山下且義部員とアシスタントトレーナーとして中尾公一トレーナーを派遣した。試合当日の後方支援病院として大阪厚生年金病院に依頼した。

- ④デ杯・2006アジア/オセアニアゾーン・グループ I 1回戦対中国戦の試合は2月10日(金)～12日(日)なみはやドームにおいて行われたが、チームドクターとして奥平修三 Dr、会場ドクターとして赤池敦 Dr・吉崎堅一 Dr・米谷泰一 Drを派遣した。チームオフィシャルトレーナーとして山下且義部員、アシスタントとして中尾公一トレーナーを派遣した。

試合当日の後方支援病院は、大阪厚生年金病院に依頼した。

- ⑤ナショナルチームとの平成17年度のメディカルサポートに関する打合せ

ナショナルチームに対するメディカルサポートにつき、平成17年3月21日(月)国立スポーツ科学センター会議室において、医事委員会とナショナルチームの打合せを行った。

出席者は、医事委員会：別府委員長・金森常任委員・服部総務担当委員ナショナルチーム：小浦GM・田島マネージャーであった。13時から2時間にわたり双方から、メディカルサポートの考え方、現状の説明、今後の方向付け等につき話し合い、体制を前向きに整備していくことを確認した。

平成17年度のナショナルチームに対するメディカルサポートは、上記のとおりデ杯戦・フェド杯戦において実施されたが、その活動を通じて更に充実した体制を目指し、複数のドクターによるチームを編成し、平成18年度からの活動に備えた。トレーナー部会との連携を密にして効果的な活動を行う。

チーム編成は次の通りである。

デ杯チーム担当：奥平修三 Dr・赤池敦 Dr・吉崎堅一 Dr・白井孝昭 Dr。

フェド杯チーム担当：金森章浩 Dr・三谷玄弥 Dr・高橋周 Dr・岩瀬春子 Dr

原田幹生 Dr。

2. ドクター・トレーナーの派遣

(1) 国際大会・全国大会への派遣

- ①「AIG OPEN」(有明)「全日本テニス選手権大会」(有明)「世界スーパージュニアテニス選手権大会」(大阪・靱)「全日本ベテランテニス選手権大会」(名古屋)「全日本ジュニアテニス選手権大会」(大阪・靱)「東レPPO」(東京体育館)「全国レディーステニス大会決勝大会」(昭島)各大会へトーナメントドクター及びトレーナーを派遣した。

また、後方支援病院として、都内開催の3大会については、東京慈恵会医科大学に、大阪開催の2大会については大阪厚生年金病院へ、名古屋開催の2大会については名古屋第二赤十字病院へ依頼した。

なお、これら大会のドクターは、医事委員会委員・部会員のほか、聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤が丘病院、東京慈恵会医科大学、北里大学医学部、東海大学医学部、茨城医療大学、筑波大学大学院、群馬大学医学部、横浜市大医学部、杏林大学医学部、京都市立病院、彦根市立病院、大阪大学医学部、兵庫医科大学、武田総合病院、よしだ整形外科、大阪北通信病院、大阪府立母子保健総合医療センター、奈良県立医科大学、半田市民病院、北斗病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、秋田大学医学部、山形大学医学部、各医局のご協力を頂き、ローテーション体制で派遣した。

また、大会トレーナーのみを派遣した大会等は、「イザワ クリスマスオープン」(神戸)「ユニバーシアード」(トルコ)「東アジア競技会」(マカオ)「全日本学生テニス選手権大会」(昭島)「全日本学生室内テニス選手権大会」(尼崎)「全日本学生大学対抗テニス王座決定試合」(岐阜)「日韓テニストップジュニアキャンプ」(湘南・SSC)「全日本

ジュニア選抜室内テニス選手権大会」(江坂)「トヨタジュニア選手権」(名古屋東山)「ジャパンオープンジュニア選手権」(名古屋東山)「全国中学生テニス選手権大会」(名古屋)である。

②「マリア・シャラポア ジャパンツアー 2005」

大阪大会に、奥平修三 Dr を 東京大会に、村松秀樹 Dr を派遣した。

(2) 指導者講習会等への講師派遣

「コーチ講習会」(会場：昭島「昭和館テアトロ.ソシエ」)

平成 18 年 1 月 15 日(日)の 9 時から 12 時迄「テニス選手に多いスポーツ傷害とその予防・対策」をテーマとした講習に金森章浩 Dr を講師として派遣した。

同日午後 13 時から 14 時 30 分まで「内科的疾患の予防と対策」をテーマとした講習に及能茂道 Dr を派遣した。

(3) 「地域ジュニア選手トレーニング・測定合宿」へのドクター派遣

平成 18 年 1 月 7 日(土)～9 日(月)、国立スポーツ科学センターで行われた地域ジュニア選手トレーニング・測定合宿の初日 7 日に、金森章浩 Dr、三谷玄弥 Dr、高橋周 Dr を派遣した。

26 名の選手につき、整形外科面のメディカルチェックを行い、スポーツ傷害の有無を診た。

また、当日納入されたハンディー型「超音波診断装置」を用い、主に上肢下肢の関節、肩関節の診断を行い、軽度の障害が認められる選手に対しては、その場で画面上の映像により解説し、日常の留意点更には専門医による精査をアドバイスした。本人はもとより引率のコーチも納得できるアドバイスに感謝され、効果的なメディカルチェックを行うことが出来た。

3. テニス障害の対策

(1) ドクター・トレーナーによる全国のメディカルサポートネットワークについては、年間を通じて、協力ドクターの増加・充実を図った。

ナショナルチームとの打合せ時にも、「JTA ホームページに名簿を掲載しているので活用方お願いしたい」とその体制をご説明したことも事もあり、その存在が選手間に少しは知られてきたようである。トップ選手が、医事委員会委員が所属する医療機関に診療を受けに来るようになった。

これは、別府委員長が月に 1 回国立スポーツ科学センターで診療を行っていることも影響しているものと思われる。更に活用を望みたい。

(2) 「メディカルサポート小委員会」では、デ杯直前の合宿においてメディカルチェックを行い、結果を直ちに選手に知らせると共に、把握したデータをコンピュータに入力し、合宿がどこで行われても、過去のデータを活用出来るよう整備した。

また、選手にデータを持たせ海外で診療を受けることになった場合活用できる体制を作った。

(3) JTA「テニス・メディカルセミナー」の開催

①「第 17 回テニス・メディカルセミナー」平成 17 年 7 月 16 日(土)

会 場：東京慈恵会医科大学・大学 1 号館 3 階講堂

講 師：奥脇 透 先生 国立スポーツ科学センター
スポーツ医学研究部 副主任研究員(整形外科)

テーマ：「スポーツによる肉離れ」

～適切な治療で慢性化を防ごう!!～

参加者：127 名

②「第 18 回テニス・メディカルセミナー」平成 17 年 10 月 22 日(土)

会 場：東京慈恵会医科大学・大学 1 号館 3 階講堂

講 師：三宅 良彦 先生 聖マリアンナ医科大学・循環器内科 教授

テーマ：「テニスコートでの心臓突然死を救う!」

～誰にでも出来る心肺蘇生と AED の活用～

参加者：104名

③「第19回テニス・メディカルセミナー」 平成18年3月19日(日)

会場：聖マリアンナ医科大学 別館8階 臨床講堂

講師：筒井 廣明 先生 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 病院長
(財)日本テニス協会医事委員会常任委員

テーマ：「テニスにおける肩の障害」

～最も複雑な構造をしている肩関節を大切に!!～

参加者：96名

(4)「AIG OPEN メディカルセミナー」

プロモーション委員会からの依頼により、昨年度に続き、AIG OPEN 2日目

10月4日(火)に、中高年テニスプレーヤー及びその指導者等を対象として「AIG OPEN
メディカルセミナー」を開催した。

会場：有明コロシウム内資料室 (AIG OPEN 会場内)

講師：別府 諸兄医事委員会委員長・聖マリアンナ医科大学整形外科教室教授

テーマ：「新しい高齢者像とテニス」

～テニスを生涯スポーツとして楽しむために!!～

参加者：44名

(5) 熱中症対策の実施

①夏の大会に対する熱中症予防支援資料の配付

次の大会ディレクターあて2種の資料を送付し活用を依頼した。

大会名

- ° 全国小学生テニス大会
- ° 全国高等学校テニス選手権大会
- ° 全日本学生テニス選手権大会
- ° 全日本ジュニアテニス選手権大会
- ° 全国中学生テニス選手権大会

送付資料

(ア) (財)日本体育協会作成の「熱中症予防パンフレット」を大会規模に応じ
200冊から700冊を送付。

(イ)医事委員会・トレーナー部会作成「熱中症予防及び具体的対策に関する掲示物（昨
年度作成したものに<セルフチェック>の項目を追加）」をそれぞれ4セットずつ送
付。

②併せて、大会プログラムに掲載する熱中症予防啓蒙記事「夏のテニスには、水が“命
”!!!」の原稿を送付し掲載を依頼した。

③各大会を担当するトレーナーに対し、村木部会長から熱中症予防対策の徹底を具体的
に指示し、審判・大会関係者へのアナウンスも依頼した。

(6) 自動体外式除細動器(AED)1台の購入と諸大会への配備

全日本ジュニアテニス選手権の直前、参加予定の18歳の選手が、練習直後に心疾患によ
り急逝されたとの情報があった。

早速、医事委員会幹部会にて協議の結果、今後日本国内で開催される全国規模の大会に
は、緊急事態発生時に最善を尽くすべく、医薬品・医療器材と共にAEDの配備が不可欠
との結論に至り、直ちに購入申請をした。

納入されたAEDの管理・運用責任者は助川副委員長とし、早速8月4日から開催の「ダ
ンロップ全日本ジュニアテニス選手権大会」に配備した。

その後、「全国中学生テニス選手権大会」「第5回スポーツマスターズ2005」「AIG
OPEN 2005」「全日本ベテランテニス選手権大会」「ニック全日本テニス選手権大会」
「全国レディーステニス決勝大会」「マリア・シャラポア ジャパンツアー 2005」「デ
杯・2006 アジア/オセアニアゾーン・グループI 1回戦対中国戦」各大会に配備した。

(7) 寄付金による医療機器の購入

9月の常務理事・本部長会議において、8月に急逝されたジュニア選手のご家族からJTAに頂いた寄付金について、ご家族が納得される用途を医事委員会又はスポーツ科学委員会で検討するようにとのことになり検討方指示があった。

早速、医事委員会会議において協議検討の結果、次の医療機器を購入する事とした。この取り扱いについてはスポーツ科学委員会とも協議同意を得ている。

①自動体外式除細動器(AED) 2台

現代社会では、諸行事における不測の事故発生については、主催者責任が大きく問われ、万一に備えどのような対策を行っていたかが、その後の問題解決に大きく影響する。AEDの公共施設等への配備は、順次進められているが、テニス界においては、常備している施設は皆無に近い状態である。

日本テニス協会としては、8月にAEDを1台購入し活用しているが、全国規模大会の開催期日が重複する場合があります、1台では運用が困難であったので、寄付金により2台購入することとした。

②ハンディ型「超音波診断装置」(ポータブル US) 1台

超音波検査(通称 エコー)による傷病の診断は、身体深部の状況を的確に把握できるので、適切な診断が出来、最適な治療をすることが可能となる。

最新情報として、軽量(2、6kg)でどこにでも持ち運びが可能な「超音波診断装置」が開発されたとのことであったので、早速、使用試験を行った結果、肩腱板断裂やアキレス腱断裂の診断に極めて有効であると判断された。

この診断装置を活用すれば、トップ選手のコート上で発生した傷害につき、その場で適切な診断を下し、試合続行の可能性、応急治療の内容の選択を即断できる。もし、プレーが継続出来ない場合でも、直ちに最適の治療を行うことにより、選手の早期戦線復帰が可能となる。

トップ選手の傷害対応、体調管理の環境を整える為にこの機器の導入が有効と考え、1台購入する事とした。

なお、以上3台の機器にはご寄贈者名を記載したプレートを貼付した。

4. 選手の痙攣防止対策の立案・提言

及能副委員長をリーダーとするプロジェクトチームで、牧田浩行 Dr、尾藤晴彦 Dr が国内・海外の文献を調べた結果、数件の文献はあったが、対策に直ちに活用出来るものは無かった。

高齢者の痙攣とアスリートの痙攣は全く異なったものであり、アスリートの場合は病気ではないので、殆ど研究されていないのが実状である。

一般に筋肉痙攣の予防法としては、「電解質の補給」「水分補給」「薬剤(クレアチン・キニン・クエン酸・芍薬甘草湯・タウリン等)」があるが、アスリートの痙攣に対する調査では有為差を認めるものはなかった。

一方、堀内正浩 Dr が、筋肉痙攣に対するサプリメント・薬物の有用性を検討した結果、クレアチン・サプリメント及びBACC(分岐鎖アミノ酸)を含んだスポーツ飲料が痙攣予防に有用と思われるとのことであった。

しかし、臨床的な検証は十分ではなく、今後、拡大プロジェクトチーム(内科医・整形外科医・神経科医・スポーツ科学委員等の編成)を作り対策の検討を推進する必要がある。

なお、4月23日・24日プラハで行われた対チェコフェド杯には、テストケースとして、足の痙攣用に「芍薬甘草湯」を持参したが、事前に日本体育協会アンチ・ドーピング委員会にドーピングにはかからないことを確認した。

5. スポーツビジョン(スポーツに必要な視覚能力)の啓蒙と普及

スポーツビジョンについては、選手・指導者の協力を得なければ測定が実施出来ない。

平成17年度においては、テニス界の理解を得るため、先ず、全国小学生大会において、

「POWER 3D VISUAL TRAINING SYSTEM(ススポーツビジョンを効果的に鍛えることを目的に開発されたソフト)のデモンストレーションを行うことにより、選手・コーチ・家族等に関心を持たせ、同時にアンケート調査も行い、スポーツビジョンの測定への協力

を求めることとした。〔プロジェクトリーダーの村松秀樹 Dr が全小テニス大会準備委員会に出席し、企画につき説明のところ、大会ディレクター・アドバイザー・ジュニア委員長及び協賛会社のご理解とご賛同を得ることが出来た。その後、具体策を記載した企画書を提出した結果、最終準備委員会で、実行の確認をするとのことであった。〔しかし、最終準備委員会において、この企画の実行は認められないという極めて残念な事態となり、年度計画の遂行は困難な状態になった。〔従って、来年度において、プロジェクトチームに他委員会からも参加頂き、テニス界に「フィジカル」「メンタル」に続く第3のスポーツサイエンスとしてその啓蒙と普及する体制を構築し推進することとした。

6. トレーナー業務の整備・充実

- (1) 諸大会・デ杯・フェド杯等におけるトレーナー業務に就き、チーム体制で新人の研修を行った。また、既にスポーツ界で活躍しているトレーナーの協力を得る体制を進め整備をした。更に、各大会を担当したトレーナーから、「トレーナー報告書」を提出する体制が軌道に乗った。
- (2) ナショナルチームへのサポート体制の向上
村木部会長が、デ杯チーム・フェド杯チームの田島トレーナーとの緊密な連携により、サポートトレーナーの編成、質的なレベルアップを図り良い体制が出来た。
- (3) 関西地域のトレーナーの体制整備
関西で開催される JTA 主催大会のトレーナーに付いては、大阪体育専門学校の太田圭介先生に手配を一任しているが、トレーナー部会としてのフォローをするために、関西地域でご協力頂いているトレーナーとの交流会を開催した。
 - ①「関西地域テニス・トレーナー交流会」
 - 開催日 :平成 17 年 7 月 16 日(土) 16:00~19:00(デ杯 2 日目ダブルス終了後)
 - 会場 :なみはやドーム 第 3 会議室
 - 参加者 :トレーナー 26 名
医事委員会からは、村木良博部会長、奥平修三 Dr、赤池敦 Dr、山下且義トレーナーが参加。
他 JTA 関係者として、スポーツ科学委員会梅林委員長、木内委員竹内監督、田島マネージャーの参加を得た。
 - 内容 : トレーナーの実務につき基礎的なものから具体的に説明し、任務についての要望事項も解説し、質疑応答を行った。
所期の成果を挙げることが出来た。
 - ②「第 2 回関西地域テニス・トレーナー交流会」
 - 開催日 :平成 18 年 2 月 11 日(土) 16:30~18:00(デ杯 2 日目ダブルス終了後)
 - 会場 :なみはやドーム 第 3 会議室
 - 参加者 :トレーナー 13 名(主に前回参加出来なかったトレーナー)
医事委員会からは、村木良博部会長、奥平修三 Dr、山下トレーナー、中尾トレーナーが参加、他 JTA 関係者として、小浦 GM、竹内監督、田島マネージャー、スポーツ科学委員会道上委員の参加を得た。
 - 内 容 : 「トーナメントメディカルサポートマニュアル」「JTA 認定トーナメントトレーナー養成セミナー」「JASA 公認 AT 全国ネットワークとの連携」等につき概要説明を行い、質疑を行った。
- (4) トレーナー部会の開催
第 1 回 JTA 医事委員会トーナー部会を開催した。
 - 開催日 :平成 18 年 3 月 19 日(日) (医事委員会会議終了後)
 - 会場 :聖マリアンナ医科大学・別館 8 階 臨床講堂
 - 参加者 :村木良博部会長、竹田康成、三木裕昭、中島幸則、茂木奈津子
 - 内容 :主として、「JTA 認定トレーナー制度及び養成セミナー」「JTA トーナメントトレーナーマニュアル」の実施について具体的に打ち合わせた。
- (5) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会への推薦

平成 17 年度の養成講習会には、神谷秀明氏と藤本義人氏の 2 名を推薦し、神谷秀明氏が受講内定者として決定した。

7. 地域メディカルサポート体制の整備

- (1) 全国のドクターの協力体制を強化するため、テニス・メディカルセミナーの資料や委員会議事録を配付すると共に、協力を求めた。
3 月 19 日の全国合同会議にも参加を求めた。
なお、学会等の機会にテニスを愛好されるドクターに、医事委員会の事業へのご協力をお願いし、新たに 10 名近くのドクターにご参加頂けることとなった。
- (2) 日本体育協会の公認スポーツドクター養成講習会につき、今後協会の業務にご協力頂けるドクターに候補者として応募頂き選考のうえ、白井孝昭 Dr、大野尚徳 Dr、藤沢邦俊 Dr、加藤敦夫 Dr、森本祐介 Dr、計 5 名の推薦を行い受理された。

8. テニス医学情報の収集

- (1) 平成 18 年 1 月 14 日～15 日にメルボルンで開催された「STMS 8th international Congress」に奥平修三委員・赤池敦委員の 2 名を派遣し、スポーツ医学の最新情報を収集した。熱中症に対する研究が有益であった。(STMS とは、Society For Tennis Medicine And Science) また、奥平修三委員は、「上腕骨離断性骨軟骨炎(テニス選手と野球選手)に対する外側楔上骨切り術を行い前腕回外制限が出た 2 症例(Post-operative Restriction of forearm Supination Prevents Full-Recovery Of High Level Adolescent Athletes.-A Report of two cases of Closed-Wedge Osteotomy For Osteochondritis Dissecans Of Capitellum)-」を演題とし、報告した。
- (2) 平成 17 年 7 月 1,2 日に奈良市において開催された「日本整形外科スポーツ医学会第 31 回学術集会」で「日本男子テニスチームメディカルサポートの現状」を演題として奥平修三委員が発表した。

9. テニス障害の情報発信

- (1) JTA ホームページ経由や、テニス・メディカルセミナー参加者等 5 名の方から医事委員会宛、テニス障害について照会・相談があったが、それぞれ具体的な回答を行うと共に、診療の必要な方については、医事委員会メディカルサポートネットワークを紹介し治療を受けて頂いた。
- (2) 日本旅行医学会・篠塚 Dr(AIG OPEN 来場者)から糖尿病患者で運動療法としてテニスを活用している方を取材して、雑誌に記事を掲載したいとお申し出があったので、インシュリン療法をしながらテニスを楽しんでいるドクターを紹介した。
- (3) 横浜市の地域テニスクラブより同クラブの広報誌に、JTA ホームページに掲載されている「テニスによる外傷・障害に関するアンケート集計報告」やテニス・メディカルセミナーの内容を引用させて頂きたいとお申し出があったので、検討の結果、引用を了承するとともに、諸資料をお送りし、ご活用頂いた。
- (4) テニス雑誌社 5 社に対し、主としてメディカルセミナーの情報を定期的に提供し活用頂いた。
- (5) テニス・メディカルセミナーの CD-ROM の頒布
今年度開催された第 17 回・第 18 回・第 19 回のテニス・メディカルセミナーの CD-ROM を制作中である。既制作済みの第 8 回～第 13 回の CD-ROM については、テニス・メディカルセミナー開催時会場にて販売すると共に、AIG OPEN 等の JTA コーナーで一般の方々にも販売した。また、JTA ホームページにてその内容を紹介しているが、全国各地からお申し込みを頂き、セミナーに時間・地理的に参加出来なかったの方々にも最新のスポーツ医学の知識とノウハウを提供することが出来た。

10. テニス医学に関する洋書の翻訳出版

「From Breakpoint to Advantage :A Practical Guide to Optimal Tennis Health and Performance」(2004 年 9 月出版されたテニス医学の洋書)を日本語出版し、コーチ等セミナー用テキスト・スポーツドクター・トレーナーの必携書・一般テニス愛好家の必携書として頒布する事によりスポーツ医学の最新知識の普及を図るため、医事委員会委員

等 20 名余に翻訳を分担頂き、翻訳はほぼ完了した。平成 18 年度の下期には発刊出来るよう書名・価格・頒布ルート等具体的な検討に入った。

総務本部 国際委員会（委員長：内山 勝）

1. 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達。

I. 国際会議への派遣

1. 国際テニス連盟（ITF）関係

a. 総会：2005 年 6 月 14 日～19 日 於プラハ

出席：川廷榮一、内山勝

内容：大会、行事、財務、その他の報告と提案、討議。規約の改正、会員資格の認定、競技規則の変更等を承認。

川廷副会長、テニスの殿堂ゴールデンアチーブ賞受賞

b. 委員会：・オリンピック委員会 6 月 24 日 於ロンドン

出席：川廷榮一

・男子サーキット委員会／男子チャレンジャー委員会

6 月 23 日～29 日 於ロンドン

9 月 1 日～3 日 於ニューヨーク

出席：川廷尚弘

・PILA Plan コミッション会議 12 月 8 日 於ロンドン

出席：川廷榮一

・タスクフォース会議

出席：

・北京五輪組織委員会合同 11 月 21 日～22 日 於北京

出席：川廷榮一 ITF カルデレゲイツ

c. 事務局：川廷尚弘がアジア地域エグゼクティブとして、各国協会の組織指導、大会協力、審判講習会等に従事。詳細は別記の通り

2. アジアテニス連盟（ATF）関係

a. 総会：7 月 27 日～31 日 於バンコク

出席：渡邊康二、川廷榮一

内容：役員改選 渡邊康二新理事に選出、大会行事委員会を担当

R. カーナ新会長選出

大会開催、全豪オープンとの協力行事、ATF14 オサーキット

b. 理事会：7 月 30 日 於バンコク

出席：渡邊康二、川廷榮一（陪席）

II. 日本オリンピック委員会（JOC）関係

1. 会議

a. 評議員会： 出席：盛田正明評議員

川廷榮一副会長定年退任、名誉委員に推挙

b. 委員会：

総務委員会 渡邊康二

スポーツ環境委員会 松岡修造

選手強化委員会 坂井利郎

アスリート委員会 松岡修造

事業広報委員会 澤松奈生子

ユニバーシアード委員会 土橋登志久

各委員が定例委員会に出席し活動に従事した。

2. 行事出席：川廷榮一
 - a. 国際グランプリ陸上（JOC 代表） 5月6日～7日 於長浜
 - b. オリンピックデーラン 5月15日 於舞浜
3. 東アジア競技大会連合（EAGA）川廷榮一 EAGA 会長
 - a. 総会 4月3日～4日 於マカオ
 - b. 理事会 10月27日 於マカオ
 - c. 2005 マカオ大会組織委員会 10月28日 於マカオ
4. 国際大学スポーツ連盟（FISU）川廷榮一 FISU テニス委員長
 - a. 2005 イズミール大会委員長会議 於イズミール
 - b. 2005 イズミール大会組織委員会合同会議 於イズミール
5. 日本オリンピックズ協会（AJO）松岡修造 AJO 理事
 - a. 理事会
 - b. トリノ五輪報告会 川廷榮一 JOC 名誉委員 3月26日 於大阪

Ⅲ. 国際テニス団体

1. 男子プロテニス選手協会（ATP）有沢三治理事 AIG オープンディレクター
2. 女子テニス協会（WTA）野地俊夫理事 PPO ディレクター
川廷尚弘スーパーバイザー

Ⅳ. 国際大会／行事の運営、参加

1. 国際オリンピック委員会総会 7月5日～8日 於シンガポール
川廷榮一 国際テニス連盟代表として出席
2. イズミールユニバーシアード 8月8日～24日 於イズミール
川廷榮一テニス競技委員長として運営
3. 東アジアマカオ競技大会 10月27日～11月 日 於マカオ
大会副会長として川廷榮一が運営従事

Ⅴ. 海外行事出席

1. 国際テニス連盟世界チャンピオン表彰式
5月31日 於パリ
盛田正明会長、川廷榮一出席
2. デ杯対ペルー戦 渡邊康二専務理事出席
3. テニスの殿堂晩餐会 9月9日 於ニューヨーク
川廷榮一出席
4. MASTERS 会議 11月20日 於上海
川廷榮一出席

Ⅵ. 国内開催行事出席

1. デ杯対タイ国戦 盛田正明会長、関係役員
2. フェド杯対ブルガリア戦 盛田正明会長、関係役員
3. JAPAN OPEN ITF 車いす選手権
川廷榮一国際テニス連盟代表
4. デ杯対中国戦 盛田正明会長、関係役員

Ⅶ. 来日海外役員の対応

1. S. アンドラダ ATF 会長、A. カーナ副会長 7月15日～17日 於大阪
盛田正明会長、関係役員と ATF 役員改選について懇談

Ⅷ. 海外各国協会との会議

川廷榮一副会長が下記に従事

- a. マカオテニス協会（4月4日 於マカオ）
- b. 中国テニス協会（11月23日～24日 於北京）
- c. 韓国テニス協会（1月20日 於ソウル）
- d. 韓国シニアテニス協会（1月21日 於ソウル）

e. 中国テニス協会（3月6日 於北京）

総務本部 テニス資料館準備委員会（委員長：宮城 黎子）

1. テニス資料館設立に向けた広報活動ならびに史資料の収集・整理・活用

「テニス資料館」設置の準備として、以下の事業を行った。

1. JTA 所蔵史資料の整理とデータベース化

(1) JTA 地下倉庫収蔵史資料の整理

①平成17年8月1日、後藤光将先生のご協力を得て、史資料の調査と整理をした。

②その他、書架に分類して保管できるよう整理を継続した。

(2) 保管倉庫の移転にともなう資料の整理

湘南スポーツセンター様からお借りしていた倉庫が閉鎖されることになったため、平成17年12月、事務局物品とともに史資料も有明コロシアム内倉庫に移された。当委員会では史資料の搬入を確認し、整理を行った。

(3) 未整理写真のファイリング

収納ケースなどに未整理のまま保管されていた写真を整理して透明ポケットファイルに仕分けた結果、ニューヨークカップ（戦前の全日本男子シングルス優勝杯）の寄贈を受けた際の記念写真など貴重な資料を発掘することができた。

(4) JTA 年表、テニス関連文献資料などのデータベース化作業を継続した。

2. テニス記録映画のデジタル映像化準備

(1) JTA 所蔵テニス記録映画フィルムの所蔵状態を調べ、リストを作成した。

(2) 11月に国立フィルムセンターに相談、12月に（株）東京光音に見積もりを依頼、3月に宮城淳氏のご協力を得てフィルム映像の下見をした。

（平成18年度特別企画として承認された）

(3) 内容の重複を避けるため、既存ビデオ類から資料DVDへのダビングを行った。

3. 広報活動

(1) テニス絵はがき販売によるPRと活動資金集め

①平成17年4月、テニス絵はがきなどの会計収支を能率的に行うため郵便振替口座「財団法人日本テニス協会テニス資料館準備室」を設けた。

②各方面のご協力により、910組（延べ1084組、単価500円）をご購入いただいた。

(2) 資料所在情報の収集

歴史展示会場、日本女子テニス連盟会報などで、資料所在情報をお寄せいただくよう文書で呼びかけた。

(3) 照会状への回答

協会内外からのテニス史に関連する問い合わせに対して調査し、回答した。

2. AIG ジャパンオープン開催時などに日本テニスの歴史展開催

(1) AIG オープン期間中に常設展「写真で見る日本のテニス史展」、特別企画展「テニス雑誌の系譜展」を開催し、展示への感想アンケートを実施した。

(2) 7月、「グラスホパー全国ジュニアテニス in 佐賀」に日本のテニス史展パネル12枚が貸し出された。

トーナメント本部 IT企画委員会（委員長：八田 修孝）

1. 国内主要大会でのライブスコアシステムの構築と運用

①AIG オープン 2005にて稼働開始。日本 HP 様に入力用 PDA 15 台のご提供をいただき、本戦初日よりサービスを開始した。JTA 公式ライブスコアボードへのアクセス数（ページビュー）は、本戦初日10月1日より最終日10月までの合計で、19,721,751 となった。

②全日本テニス選手権にて実施。AIG オープンでは稼働開始と同時に200万アクセスを超

え、サーバがダウンするというパニックがあった。この対策として、アプリケーション、サーバともに見直しをした。さらに、日本 HP 様より入力用 PDA 5 台、公式スコアカード出力用 PC、サーバコンピュータなどの追加ご提供をいただき、より充実したシステムとなった。JTA 公式ライブスコアボードへのアクセス数（ページビュー）は、予選 11 月 10 日より本戦最終日 20 日までの合計で、7,859,462 であった。

- ③ 2006 年デ杯 1 回戦の中国戦（大阪なみはやドーム）にて実施。5 セットのデ杯に対応するためのプログラム改訂を行った。JTA 公式ライブスコアボードへのアクセス数（ページビュー）は、2 月 10 日から 12 日までの 3 日間で 262,558 であった。

2. JTA 公式サイト選手向け情報、愛好家向け情報、ドナー向け情報、強化活動報告、一般向け情報の充実に向けてサーバの強化。JTA からの情報発信能力を向上し、充実した情報をリアルタイムで提供可能とする。

① JTA 公式サイトサーバの移行

ユーザ管理、メールユーザ管理などの通常のサーバ利用上で必要な管理業務を、事務局で直接管理できるようになり、運用上の柔軟性と機動性を得た。

出版物の販売をネットショップ化、インターネットを活用した告知・受注・販売管理実務担当者との自動的発注の実現により、出版物の販売が効率化。

Club JTA のドナー募集・申し込みの Web 化を実施。従来 FAX、郵送等で行っていた申し込みのほとんどが現在 Web 申し込みで行われており、煩雑で連絡ミスなどの事故の発生の可能性があったが、Club JTA の運営業務の効率が向上したうえ初期コストも回収され、現時点で高い省コスト化が実現している。

JTA 公式メールマガジンの記事掲載・管理については、広報委員会が自ら管理を行うことが可能になり、メールマガジン配信サーバ利用時より、充実したきめ細かな情報発信が可能になった。また、購読受付から配信までの業務の全部を JTA のサーバで行うことで JTA のアイデンティティが確立され、JTA のブランド価値向上に結びついている。結果的に広報委員会として作業量・負担量は増加したものの、目的である広報機能の充実に大いに寄与している。

CGI による最新情報発信を実現した。結果、テニスファンに対しての情報発信の頻度アップと新鮮度アップが図られた。現在は外部のブログサービスを利用した公式 Web へ発展し、委員・ボランティアが直接記事を掲載し、生々しい写真を多用したリアルタイムな情報提供が行われている。

現在利用している Web サーバの利用者数の増加、掲載情報の多彩化・大量化が進み、サーバのキャパシティ・能力が不足しがちでアクセスが集中することで情報の表示が遅延する程の利用があるまでになっている。サーバの能力向上については今後の課題としたい。

JTA・JTT 各大会の情報の Web 発信については、移行前の統一性がなく利用者からの不満が多かった。今期は利便性の点で大きく改善され、最近では事務局サイドでの情報更新も実現され、概ね期待通りの効果が得られている。しかしながら、利用者が希望する情報の新鮮度（更新速度・頻度の向上）については、掲載すべき情報の出所から掲載までの伝達がうまく行われておらず、改善すべき問題点として残っている。

この問題の解決はイコール情報の出所である大会運営側で適切かつ確実な情報伝達と JTA サイドでの受け入れ態勢の充実という全体的な情報の流れを確立した IT 体制の構築という重要かつ本質的な問題であるため、漸次推進に努めるとともに、日本テニス界全体の取り組みとしての認知向上を図っていきたい。

マナーキッズテニス活動の告知・情報提供・報告レポート掲載については、委員による随時リアルタイムな情報提供が実現されており、JTA サイトでも活発なページとなっている。日本テニスへの貢献・情報提供・活動実績の広報...と JTA の業務の Web 化の好例であると考えられる。

コーチネットワーク、選手データベース・名簿管理等の業務の効率化については、事業が立ち上がっておらず効果はあがっていない。JTA の選手情報管理、事務局機能の Web 化・インターネット対応化つまりは IT 化は高い効果が見込まれるため是非実現したい。

ランキング情報の Web 提供については、以前のランキング情報提供の効率が悪く、ブラウザでの表示品質・速度品質が劣悪で利用者の不満が大きかった部分であるが、表示の品質・速度は劇的に改善した。ランキング情報の提供の面では概ね好評である。

しかしながら、ランキング情報の元情報の入力・集計・Web 掲載という一連のルーチンワークのオンライン化やデータベース化は実現しておらず、Web 掲載までのタイムラグ解消・レスポンスタイムの極小化にはいたっていない。この課題の解決には業務の見直しとシステム化が必要であるが、実現後の効果は大きいと思われ、これも新 JTA ランキングシステムへの対応とともに今後の課題としたい。

テイジンベテラン JOP ランキングという形で JTA サーバ以外での展開もはじまっており、オンライン化による相乗効果が期待される。

最近サッカーや野球などの競技において国別対抗戦や海外での日本選手の活躍に非常に関心が高まっているが、JTA も積極的にナショナルチームの活性化に強化に取り組んでいる。

残念ながら、JTA サイトの「ナショナル」は現時点に至るまで長期に渡って「準備中」状態である。本来、「ナショナル」へ統合される予定であったページの一部は「日本テニス協会について」以下の「スポーツ科学情報」、「ClubJTA」内の「活動報告」、「キッズテニス」以下の「マナーキッズテニス教室」等で公開されているため、全く進捗していないということではないものの、選手強化、ナショナルチームのための「ナショナル」サイトの公開と活動が 06 年度における重要課題であると認識している。本「ナショナル」ページは本委員会のページではないが、できるだけサポートしていくべきと考えている。

また、各委員会の Web 上での活動については、他の競技に比して、低調に思われる。日本テニスの国民一般へのアピールの必要性が問われている中、Web での活動の存在感の薄さは憂慮される状況と思われる。今後の重点課題としていくべきと考えられる。JTA 全体でのより一層の取り組みを期待したい。

②サーバコンテンツ管理

サーバ管理を IT 委員会にて行うことで、低コストで柔軟な管理を行う。JTA 公式サイトのコンテンツ作成を行うスタッフが同時に行うので効率的。

また、必要な管理のみ行うので低コスト。後述するメルマガ、メーリングリスト等いままでのサーバ管理会社ではできなかった管理ができるようになる。

1 で言及しているように、コンテンツの各担当者・委員による独自管理が可能になり、提供情報の量・質両面での向上は明らかで、JTA のインターネットでの存在感・日本テニス界への貢献度の最大化に寄与していると考えている。

しかしながら、改善すべき課題も山積みになっていることも忘れてはならない。

課題・問題の大半は、JTA の職員・各委員会や委員・ボランティアだけでなく日本のテニス界全体の IT 化の課題であるため、今後さらなる努力を積み上げていきたい。

③メーリングリストサーバ構築

メーリングリストについては、機能として実現済みであるが、現時点で活用例はない。メーリングリストの利便性の認識の高まりにあわせて実用化していきたい。

トーナメント本部 国際大会委員会（委員長：畠中 君代）

1. 各種国際大会の主催ならびに後援・公認

〈男子大会〉

- ①甲府男子フューチャーズ F1(山梨/4月12日～17日)
- ②北杜男子フューチャーズ F2 (山梨一北杜市/4月19日～24日) *新設
- ③静岡男子フューチャーズ F3(静岡/4月26日～5月1日)
- ④サニックス男子フューチャーズ F4(宗像市/5月24日～29日)
- ⑤サニックス男子フューチャーズ F5(宗像市/5月31日～6月5日)

- ⑥草津男子フューチャーズ F6(草津町/6月14日～19日) *新設
- ⑦軽井沢男子フューチャーズ F7(軽井沢町/6月20日～26日) *新設
- ⑧昭和の森男子フューチャーズ F8 (東京/6月28日～7月3日)
- ⑨TTC かしわオープン男子フューチャーズ F9(柏市 8月30日～9月4日)
- ⑩住環境フューチャーズ F10 (東京/9月6日～11日)

〈女子大会〉

- ①東レ パン・パシフィック・テニス (東京/2月1日～2月6日)
- ②山口国際女子(山口 4月19日～24日)
- ③浜名湖国際女子 (三ヶ日町 4月26日～5月1日)
- ④カンガルーカップ国際女子 (岐阜/5月3日～8日)
- ⑤福岡国際女子オープン (福岡/5月10日～15日)
- ⑥軽井沢国際女子 (長野/5月24日～29日)
- ⑦草津国際女子 (群馬/5月31日～6月5日)
- ⑧昭和の森国際女子 June (東京/6月7日～12日) *新設
- ⑨ベストアメニティカップ久留米国際(久留米/7月19日～24日)*新設
- ⑩埼玉グリーン国際女子 (川口/8月30日～9月4日)
- ⑪GS ユアサオープン(京都/9月6日～11日)
- ⑫広島国際女子(広島/9月13日～18日)
- ⑬セキショウ国際女子 (茨城/ 9月20日～25日)
- ⑭ゴーセンカップ牧の原国際女子 (牧の原/10月18日～23日)
- ⑮昭和の森国際女子(東京/10月25日～30日)
- ⑯須玉国際女子 (山梨/11月1日～6日)

〈ジュニア大会〉

- ①兵庫国際ジュニア大会 I (三木市/第1週=8月31日～9月5日)
- ②兵庫国際ジュニア大会 II (三木市/ 第2週 =9月7日～12日)

2. 各種国際大会の開催ならびに外国からの選手招聘

〈一般主催大会〉

- ①AIG OPEN 2005
- ②第41回 島津全日本室内テニス選手権大会 2005
(男子 ATP 京都チャレンジャー)

〈ジュニア主催大会〉

- ①JAPAN OPEN JUNIOR 2005 (ITF=G1 大会)
- ②大阪市長杯ワールドスーパージュニアテニス 2005 (ITF=GA 大会)

3. トーナメント改革の実施

参加日本人選手にとってポイントが効果的に獲得でき、グランドスラムへ進めるように出来る限り効果的大会の配置を検討。17年度は ITF レベルの大会を男子 10 大会、女子 16 大会開催する運びとなった。またより良い大会開催のため、委員を大会に派遣したり、新設大会の打ち合わせやサイトチェックを行った。(十勝、神戸、宮崎)

本年度は選手が日本にいながらポイントを効果的に取れるよう、特に女子は各大会に賞金の増額をお願いしたので、予選から WTA ポイントの取れる 25000 ドル大会の数を増やすことができた。

公認大会の整理、JTA 承認料の見直しを行った。

4. 国際大会視察の実施

- 4月：デビスカップ 2005・タイ戦 (大阪一門真市)
ジャパンオープンジュニア 2005 (名古屋市)
山口国際女子(山口市)
北杜男子フューチャーズ(北杜市)
- 5月：カンガルーカップ(岐阜市)
福岡国際女子 (福岡市)

- サニックスフューチャーズ (宗像市)
- 7月：ベストアメニティカップ国際女子 (久留米市)
- 9月：広島国際女子(広島市)
- ジーエス・ユアサ国際女子オープン(京都市)
- 2月：デビスカップ 2006・中国戦 (大阪一門真市)

5. 国際大会ディレクター会議の開催

- ①4月7日： 国際大会関係者会議
- ②5月16日：国際大会関係者会議
- ③6月9日：委員会と大会ディレクター合同会議
- ④7月27日：国際大会カレンダー検討委員会

トーナメント本部 国内大会委員会 (委員長：畠中 君代)

【2005年度委員会会議】

- 2005年4月7日 第1回国内大会委員会
- 2005年5月16日 第2回国内大会委員会
- 2005年7月22日 国内大会委員会
- 2005年10月29日 国内大会委員会
- 2005年11月4日 国内大会小委員会
- 2005年11月13日 国内大会委員会 ディレクター会議
- 2005年11月17日 国内大会小委員会
- 2005年11月20日 国内大会小委員会
- 2005年11月22日 国内大会委員会 日程調整会議
- 2005年11月25日 国内大会小委員会
- 2005年11月29日 国内大会小委員会
- 2005年12月1日 国内大会小委員会
- 2005年12月15日 国内大会小委員会
- 2006年1月19日 国内大会小委員会

1. 【国内トーナメント (一般大会) の円滑な運営と管理】

- 1) 国内大会の公認ならびに支援
 - (1) 男子シングルス 195 大会
 - (2) 男子ダブルス 171 大会
 - (3) 女子シングルス 165 大会
 - (4) 女子ダブルス 135 大会
- 2) JTT 大会、JOP 大会の整備ならびに日程調整
 - (1) 2005年11月22日 日程調整会議を開催
国際大会、JTT 大会、JOP 大会等、カテゴリーを鑑み日程の調整をした。
- 3) 選手登録の拡充と管理
 - (1) 新ランキングの円滑な運営に必要な選手登録システムの提案がなされた。

2. 【新ルールブックの発刊・販売ならびにルールの周知徹底】

- 1) 大幅なルール改正に伴うルールブックの内容およびデザイン刷新
「JTA TENNIS RULE BOOK 2006」の編集、出版
- 2) 新ルールブックの販売

3. 【JTA ランキングシステムの創設】

- 1) JTT・JOP ランキングを統一し、新たに JTA ランキングを創設した。
- 2) 2006年4月より施行される新ランキングシステムの円滑な稼働のため、ルール作成およびシステム構築の準備をした。

- 3) 新ランキングの開始に先駆け、各傘下団体、地域都府県協会、各主催者ならびに登録選手全員に郵送にて変更の旨を通知した。また雑誌、JTA ホームページにて広く一般にも告知した。

4. 【新しいカテゴリーの公認】

- 1) JTA ランキング創設に伴い、同ランキングをより「真の実力評価基準」とするためにまず実力の高い学生大会（春季学生大会、夏季学生大会）を新たにその対象大会とした。

トーナメント本部 審判委員会（委員長：増田 憲司）

1. 各種大会へのレフェリー・審判員の派遣

年度末に全国の公認審判員 B 級以上の有資格者に大会希望調査を取りまとめ、各大会へベストの審判員を送るべく努力している。長期に亘る予定のため審判員の予定変更が多い。また大会の予算制限によりベストの審判員の派遣が難しく、担当者にとって大変な作業であった。

- * 各大会の指名主審に任命された審判員は、12 項目からなる「審判員の勤務・環境についてのレポート」を大会毎に提出する。委員会の見解を年度末に集計しバッジホルダー審判員に配布している。

* 主審・ラインアンパイア派遣数(延べ人数)：

大会名	主審	ラインアンパイア
デ杯 大阪	1	22
Fed Cup 東京	0	22
全日本選手権	120(延べ)	400 (延べ人数)
AIG Japan Open	32(延べ)	600 (延べ人数)
他 27 国際大会	200(延べ)	1,400 (延べ人数)
国内大会	10	60

2. 国際審判員・レフェリーの養成事業の実施

①新人の OJT

新人 10 名を OJT のため以下の大会に試験的にレフェリー・主審として派遣した。また、同大会には認定指導員を派遣し、新人の指導・評価を行った。これらの新人のうち 3 名を平成 18 年度 ITF 主催レベル 2 スクールに受験させる予定。その他 5 名を平成 18 年度 ITF 主催レベル 3 スクールに受験させる。

日時：9 月・10 月・ 11 月

場所：茨城・山梨・静岡（ITF 女子）・兵庫（Jr.）・長野・千葉（ITF 男子）・東京（全日本）

参加者総数：10 名

②海外大会への国際審判員の派遣

氏名	ポジション	大会名
川廷尚弘	ゴールド レフェリー	FED CUP(中国)・デビスカップ(香港)・アジアベテラン選手権(タイ)・全米オープン・アジア選手権(ウズベキスタン)・CHINA OPEN・THAILAND OPEN・ブサンオープン
岡村徳之	主審	アジア選手権(ウズベキスタン)・デビスカップ(タイ)・THAILAND OPEN・

大原泰次郎	主審 ・ ライン レフェリー	Australian Open ・ Wimbledon Qualifying ・ Australia Junior Hard Court East Asian Games ・ Sydney Medibank Int' ITF \$10K Chinese Women's Circuit 1 ・ ITF \$10K Chinese Women's Circuit 2
松野えるだ	シルバーレフェリー	中国 \$ 25000 Circuit ・ ベトナム \$25000
小林あおい	レフェリー	中国 \$10000 ・ 韓国 \$10000
藪野容子	ライン	オークランド ASB クラシックオープン ・ Heineken Open
辻村美和	主審 ・ ライン	Australian Open ・ US OPEN ・ ドバイ大会 ・ CHINA OPEN
須山亜由美	主審	東アジア大会
山中友子	ライン	ASB Classic ・ Heineken Open
近藤康幸	主審	東アジア大会
川上由紀子	主審	東アジア大会

3. 審判員・レフェリーの養成事業並びに審判講習会の実施

①C級審判員認定会

認定員用に教材を電子ファイル化した。

認定員：岡村徳之・川廷尚弘・松野えるだ・田中信子・大久保範子・大原泰次郎・八木真理
平成 18 年度要員として 2 名推薦した。

都道府県から JTA に申請書が提出され、認定員を派遣した講習会・及び認定講習会は 25 回開催し、およそ 400 名の新規審判員を誕生させた。この中から審判員育成として国内で開催される国際大会の主審・ラインアンパイアを経験してもらった。

開催都道府県：福岡・愛知・静岡・宮崎・秋田・大阪・宮城・京都・滋賀・新潟・広島・神奈川・栃木・東京・大分・青森・石川・鳥取・北海道・富山・埼玉・関東協会
普及指導員講習会・専門学校・関東学生連盟・日本女子テニス連盟

②B級審判員認定会

開催日：12 月 3・4 日

開催地：兵庫

合格者：35 名

③学連・専門学校生の講習会

1 月に関東学生テニス連盟を対象とした講習会を開催された。加盟大学のテニス部から総計 2 日間で約 300 名の受講者があった。その中には国際大会で主審・ライン・競技本部で活躍して頂いた方もいる。

専門学校 3 校の学生に、Fed・デ杯・全日本・AIG に線審・ボーラーで活躍して頂いた。

4. 審判の実態把握ならびに審判員の待遇改善

①日本のレフェリー・国際審判員(ブロンズ以上)が国際大会に対し絶対数が足りないため海外からの徴集している。平成 18 年度は 5 名の国際レフェリー・審判員を誕生させたい。

②日本の環境として、平日会社を休むことに限度があるため、会社員の審判員がトーナメント全体を通して勤務することに困難がある状況である。

5. 公認審判員・公認レフェリーの 17 年度更新登録者管理

①公認審判員・レフェリー17年度更新登録者数

・公認審判員：860 名 (内 2005 年度の更新登録者 420)

・B 級レフェリー：35 名

6. 「ルールブック 2006」発行

長年親しまれて来た「コートの友」が、「JTA テニスルールブック」と名称を替え完全に

ニュアルした。本のサイズと文字を大きくし、内容もそれぞれの立場で必要な情報を探しやすく再編した。またルールと諸規則は国際ルールと整合性を持たせた。また、同本に対する質問をWEBサイトで受け付けるようにした。

●主なコンテンツ

- 1 テニスのルールとケース（試合でよく起こる例を解説）
- 2 プレーヤーとレフェリーが読む、大会での規則
- 3 大会の主催者とディレクターが読む、大会開催の規程
- 4 JTA ランキングの仕組み
- 5 チェアアンパイアのやり方

トーナメント本部 国体委員会（委員長：森 清吉）

1. 第 60 回国民体育大会テニス競技の運営

第 60 回国民体育大会（岡山県）開催

事業内容：期日：平成 17 年 10 月 22 日（土）～26 日（水）

場 所：岡山県備前市総合運動公園テニスコート

参加人数：成年男子 32 都道府県 96 人、成年女子 32 都道府県 96 人
少年男子 47 都道府県 141 人。少年女子 43 都道府県 129 人
合計 462 人

内 容：最終日に高円宮妃殿下のご臨席を賜り、地元岡山県成年男子決勝戦 NO. 1 の試合をご観戦いただきました。はれの日国体の通り 1 日の雨もなく、前年のリハーサル大会の経験を生かし、無事終了しました。

2. 第 29 回全日本都市対抗テニス大会の実施

第 29 回全日本都市対抗テニス大会（第 61 回国民体育大会リハーサル大会）

事業内容：期日：平成 17 年 7 月 21 日（木）～24 日（日）

場 所：兵庫県神戸市総合運動公園テニスコート

参加人数：32 都道府県 544 人

内 容：平成 18 年 10 月に開催されます国民体育大会のリハーサル大会として開催しました。6 年前の正規視察より準備を重ね、神戸市、兵庫県テニス協会のご尽力により無事終了しました。優勝は神戸市が 2 連覇しました。来年の本国体では開催場所が 2 ヶ所となるので人数の確保が大変である。

3. 第 29 回全日本都市対抗テニス大会の準備等

①事業内容：上記大会抽選会および開催準備

期 日：平成 17 年 6 月 21 日（火）

場 所：兵庫県神戸市

出席者：森 清吉 杉澤雅敦

4. 国体委員会の開催

①第 1 回国体委員会

事業内容：全日本都市対抗および国体開催の準備状況について、その他。

期 日：平成 17 年 7 月 21 日（木）

場 所：兵庫県神戸市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋
全国 9 地域国体委員、地元兵庫県テニス協会

②第 2 回国体委員会

事業内容：国体開催の準備状況および国体出場者の確認、その他。

期 日：平成 17 年 9 月 22 日（木）

場 所：岸記念体育館

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋

全国9地域国体委員、岡山県テニス協会

③第3回国体委員会

事業内容：岡山県国体の準備状況報告、第30回全日本都市対抗テニス大会の準備報告、その他。

期 日：平成17年10月22日（金）

場 所：岡山県備前市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋
全国9地域国体委員

5. 財団法人日本体育協会国体委員会への出席

①期 日：平成17年6月15日（水）

場 所：岸記念体育館

出席者：森 清吉

内 容：第63回国民体育大会開催地（大分県）の決定について
第65回国民体育大会開催地（千葉県）の内定について
第61回国民体育大会夏・秋季大会実施要項総則（案）について、その他。

②期日：平成17年9月22日（木）

場 所：岸記念体育館

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、姫井義也、佐伯洋
全国9地域国体委員、岡山県テニス協会

内 容：第60回国民体育大会（岡山県）テニス競技抽選会

③期 日：平成17年10月11日（火）～12日（水）

場 所：山口県岩国市

出席者：森 清吉、杉澤雅敦、佐伯洋

内 容：第66回国民体育大会（山口県）第一回正規視察

④期 日：平成18年3月28日（火）

場 所：岸記念体育館

出席者：杉澤雅敦

内 容：第2回国体競技運営部会
国体改革2003の進捗状況について
平成17年度国体参加者傷害補償制度について
国民体育大会参加申込システムについて
第61回国民体育大会（兵庫県）映像等配信事業について
第61回国民体育大会（兵庫県）以降の大会参加得点の考え方について
平成18年度以降の国体ドーピング・コントロール検査について

トーナメント本部 実業団委員会（委員長：仲島 彰信）

1. 第20回テニス日本リーグ

①1stステージ：平成17年12月9日（金）～11日（日）

会場：横浜国際プール・広島広域公園

②2ndステージ：平成18年1月19日（木）～22日（日）

会場：横浜国際プール・荏原湘南スポーツセンター・広島広域公園

③決勝トーナメント：平成18年2月17日（金）～19日（日）

会場：東京体育館

男子16チーム、女子10チームをそれぞれ2ブロックに分けリーグ戦を行い、男子は各ブロック上位3チーム計6チーム、女子は上位2チーム計4チームによる決勝トーナメントの実施。試合は2シングルス・1ダブルスにて行う。デ杯選手等日本のトップ選手・タイ・台湾代表選手の出場もあって大会の内容が充実し各会場盛況。

東京体育館の決勝トーナメントは、今回は第20回大会ということで男子は準々決勝から行う。また、土日の準決勝・決勝戦の試合前にチアリーディングチーム(日本女子体育大学・日本大学)の演技を開催。ほぼ満員の観客を大いに沸かせた(3日間で11000人を動員)。準決勝戦および決勝戦・3位決定戦は同時試合開始で行い、観客の入れ替わりもなく大いに盛り上がった。

また選手入場も音楽を流し、チーム紹介も昨年より更に手際よく、観客から見てもより体裁が整ったと考える。TVの放映(GAORA)も3回行う。選手・運営・観客の一体化も進んでいる。

1stステージの土曜日に広島会場にて出場選手の協力を得てジュニアクリニックを、決勝の東京体育館では東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニックを開催。更に日本リーグ決勝トーナメント観戦招待の展開も行う。観戦招待では今回も1300名余の応募があり来場。

尚、今後の日本リーグのあり方については、各方面の意見を聞きながら引き続いて検討する。日本リーグ20回を記念して、第1回～20回の全記録誌を発行するべく作業に入る。

2. 第19回全国実業団対抗テニストーナメント(A大会)

平成17年10月13日(木)～16日(日)

会場：広島広域公園

日本リーグ昇格チーム決定の大会で、男子16チーム、女子10チームにより行われ、男子上位4チーム、女子2チームが昇格。試合は日本リーグと同じく2シングルス・1ダブルスにて行う。

3. 第44回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)

平成17年8月26日(金)～28日(日)

会場：羽鳥湖高原レジーナの森

男子32・女子24チームの1シングルス・2ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを行うため全チーム2～3日間にわたり試合を行う。

実業団の普及大会であるがレベルは年々向上。選手間の交流も深まり交流試合にまで発展している。楽しい大会として熱気も高まり、特に懇親パーティーは大変盛り上がり好評。

[問題点]

3年ほど前から顕著になってきた女子チームの試合参加数の減少。地域格差はあるが女子のチーム編成に難しさがあり、A大会出場チームが減少。また日本リーグ出場は会社が認めないというケースも増加している。

検討委員会を開催し対策を検討。

出場選手の参加資格についての制限も、日本リーグ及びA大会において撤廃し、外国籍選手も2ポイント出場可能とした。更に女子については補強選手1名の登録も昨年より認めることにした。

また、地域テニス協会にとって実業団の組織化は大きな財源と思われ、昨年からは提唱しているが、その組織化に相変わらず意欲的でないように見受けられる。東京都テニス協会の実業団委員会を参考にしてPRを続けていきたい。また、18年度には実業団他団体組織の実態調査を行いたいと考えている。

ベテラン本部 ベテラン委員会 (委員長：土屋 善二)

1. 第67回全日本ベテランテニス選手権大会の開催

予 選：平成17年10月8日 男子単 55,60,65 才以上, 女子単,55,60 才以上

平成17年10月10日 女子単 50,才以上

平成17年10月11日 男子単 35,40,45,50 才以上,女子 40,45 才以上

本 戦：平成17年10月8日～10月16日 8:30～

種 目：男子単 35,40,45,50,55,60,65,70,75 才以上 9 種目

男子複 35,40,45,50,55,60,65,70,75,80 才以上 10 種目
女子単 40,45,50,55,60,65 才以上 6 種目
女子複 40,45,50,55,60,65,70 才以上 7 種目 以上 32 種目

会 場：名古屋市・東山公園テニスセンター

【室内外共砂入り人工芝コート 20 面（内 4 面室内）】

参加資格：①JTA に当該年度（2005 年度）の選手登録を行なったアマチュア・プロフェッショナル登録者

②ベテラン JOP ランキング規程によるベテラン JOP 取得者

参加人数：予選 男子単 7 種目 84 名，女子単 5 種目 50 名，計 134 名

本戦 男子単 9 種目 260 名，男子複 10 種目 150 組 300 名，計 19 種目 560 名
女子単 6 種目 132 名，女子複 7 種目 156 組 312 名，計 13 種目 445 名
計 32 種目 総計 1407 名

グレード：A

補 足：ベテラン JOP 対象大会は、グレード A の本大会を頂点として、B1(1 大会)，B2(2 大会)，C1(2 大会)，C2(2 大会)，D1(5 大会)，D2(2 大会)，E1(36 大会)，E2(32 大会)，および日本スポーツマスターズテニス競技の計 80 大会がある。

2. 第 29 回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力

本 戦：平成 17 年 11 月 3 日～11 月 16 日 14 日間

種 目：男女単複 32 種目

会 場：佐賀市・ウィンブルドン九州テニスクラブ【天然芝コート 15 面】

参加資格：①JTA に当該年度（2005 年度）の選手登録を行なったアマチュア・プロフェッショナル登録者

②ベテラン JOP ランキング規程によるベテラン JOP 取得者

ただし、男子 80 歳以上ダブルスについてはオープン参加とし、ベテラン JOP の規定を除外します。

③シングルス・ダブルス両種目に出場するものは、年齢の異なる種目にはエントリーする事はできません。

参加人数：男子単 9 種目 144 名，男子複 10 種目 100 組 200 名，計 19 種目 344 名

女子単 6 種目 106 名，女子複 7 種目 71 組 142 名，計 13 種目 248 名
計 32 種目 592 名

グレード：B1

補 足：全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートの会場である。

参加者数増加により次年度以降の大会要項問題点の検討を解決しなければならない。

3. 47 都道府県協会主催のベテラン JOP E 大会の推進と運営協力

事業内容：長寿社会を迎えた今日、47 都道府県協会のベテランテニスの普及と活性化に資するため当委員会が策定提案した「ベテランテニスの発展拡充計画」の一方策としてのグレード E 大会は、各協会のご協力を得て、本年度は E1 大会は 11 大会、E2 大会は 22 大会計 33 大会となり、昨年より E1(オープン)大会が増加するとともに、E2 大会から E1 大会へ、さらに E1 大会よりその上の D 大会への指向が強まってきた。グレード A～D 大会さらに E 大会の拡充策により平成 18 年 3 月末の選手登録者も 6217 名となり、昨年 3 月末の 5478 名をはるかに上回り、更なる増加が見込まれている。こうした「発展拡充計画」の実行発展に伴いベテラン本部ベテラン委員会と改組され、ベテランテニスの活動に拍車をかけることになった。当委員会は E 大会の整備と拡充とともに、市町村あるいはテニスクラブ他諸団体が運営するベテラン諸大会をグレード F～H 大会として公認すべき諸準備を進め（申請手続他公認諸規程・ポイントの作成等）全国 9 地域ベテラン委員担当者に説明会を実施した。また承認 E 大会は各協会 1 大会（北海道 2）となっているが希望があれば本年度より複数大会とし、開催種目も 6 種目以上となっているが、参加者数不足のため結果的に 6 種目に達

しなかったとしても、当分の間は4種目以上であれば可とすることとし、ベテラン選手の生涯スポーツとしての活躍と楽しみを広げることに配慮した。

4. ベテランJOPグレードFGH大会実施に伴う全国規模による諸準備の推進

都道府県主催のグレードE大会の下に、市町村あるいは、テニスクラブ他諸団体が運営するベテラン諸大会を大会をグレードFGHとして公認しベテランテニスの底辺の拡充を図る事にし、次年度実施を目標に諸準備を進めた。

①全国地域ベテラン委員長への説明会の実施

4月26日 全国地域ベテラン委員長会議を開催（岸記念体育館4F会議室）

②各都道府県ベテラン委員長に対する説明会の実施

全国地域ブロックのベテラン担当者を各々、招集し各地の協会に説明会を実施しました。

③11月1日 各都道府県テニス協会宛、大会申込用紙及び細則を送付した。

5. 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力

主催者（財）日本体育協会の委託事業として第5回本大会を共同主催し、運営主管の富山県テニス協会の運営に協力した。

開 会 式：平成17年9月22日 16:30～18:50

（前夜祭）富山市・全日空ホテル 高円宮妃殿下ご来臨 出席者約867人

期 日：平成17年9月23日～26日

会 場：岩瀬スポーツ公園テニスコート 砂入り人工芝コート

開 始 式：平成17年9月23日 9:00～

開始宣言 中西伊知郎 大会ディレクター

大会会長挨拶 田中耕二 JTA 常務理事（盛田会長代理）

歓迎挨拶 宮崎甚一 富山県テニス協会会長

〃 吉川 實 富山市教育長（森 雅志富山市長代理）

〃 佐藤直子 大会シンボルメンバー

競技説明 土肥 博 レフェリー（富山県協会常務理事）

司 会 野崎拓哉 アシスタントディレクター（富山県協会理事長）

種 目：男子単35才以上、複45才以上、女子単複40才以上

参加資格：JTA選手登録者にして、各協会の推薦（推薦方法は任意）による男女単複各1名1組（主管の場合は2名2組）48ドローとする。辞退がでた場合はあらかじめ順位をつけて、複数参加を申し出た協会を対象にベテランJOPランキング順にワイルドカードとして割り当てる。ただし、同一県最大4名4組。

参加人数：男子単48名、複40組（80名）計128名

：女子単48名、複47組（94名）計142名 合計270名

不参加県5府県（青森・群馬・京都・高知・鹿児島） 参加率89%

今回は不参加県が5府県もあり前回97%を下回る参加率であった。

大会は台風による悪天候にも拘らず、スケジュール通りに進行できた。

6. 国際ベテラン大会への選手派遣

(1) 国際ベテラン大会への選手派遣と参加（ベテラン委員会）

①ITF主催 年令別世界ベテラン大会 Aグループ大会

<団体戦> 平成18年3月27日～4月1日、オーストラリア・パース

男子 35才以上 ○沼尻満男、伊藤健二、薮田恵士

40才以上 ○岩見 亮、友岡 孝、野口賢一、廣岡孝通

45才以上 不成立

55才以上 ○塩見芳彦、上田 滋、川口和秋、大沢 誠

女子 不成立

(○はキャプテン)

<個人戦> 平成18年4月2日～8日 オーストラリア・パース

男子 35才以上 加藤全孝、沼尻満男、伊藤健二、末吉徹也

40才以上 加藤全孝、沼尻満男、伊藤健二、末吉徹也、

岩見 亮、友岡 孝、薮田恵士

45才以上 廣岡孝通

55才以上 内藤義雄、塩見芳彦
女子 45才以上 小泉幸枝
50才以上 山下千代子
55才以上 金澤博子、水野美子、松井文子

<参加数> 男子11名

<個人戦> 男子14名、女子5名 合計30名

②ITF主催 年令別世界ベテラン大会 Bグループ大会

<団体戦> 平成17年10月17日～22日、トルコ・アンタリア

○キャプテン 女子 60才以上 ○南井多恵子、小川加代子、藤波佳子、清 孝江

女子 70才以上 ○金子千春、斉藤恵美子、石井伸子、塩野入英子

<個人戦> 平成17年10月23日～30日 トルコ・アンタリア

男子 60才以上 神谷邦夫、北端大造、菅 芳夫

65才以上 秋野 修、須藤 寛、栗田俊男、石井八洲男
鈴木秀人、安達正純、栗田克彦

70才以上 坂上日出夫、辻本朝男、松堂 力、尾田行令

女子 60才以上 千葉穂子、湯浅 幸、中村町子、田中俊子

野間富美子、佐野美保子、南井多恵子、
枝川正子、池辺和子

65才以上 柚木邦子、鈴木美知子

70才以上 金子千春、斉藤恵美子、塩野入英子

③ITF公認アジアベテラン選手権大会（年令別・個人戦）

主催：タイテニス協会

期日：平成17年8月15日～21日

会場：タイ・パタヤビーチ

参加選手：男単35才以上 前田晋吾

男単40才以上 岩見 亮・伊藤健二・藪田恵士

男単45才以上 廣岡孝通

男単65才以上 小野 均

④ATF公認アジア都市対抗国際ベテラン大会

主催：タイ・ベテランテニス協会

期日：平成17年11月9日～12日

会場：タイ・パタヤビーチ Siam Bayshore&spaHotel

種目：男子複50, 55, 60, 65, 70以上各1組

女子複50, 55才以上各1組 計7組による団体戦

参加選手：土屋善二（キャプテン）・村上交周（マネージャー）・上田滋・川口和秋

浅海安義・寺内寿明・神谷邦夫・北端大造・戸田三津男・尾田行令

小畑寿男・松井文子・石井三代子・福永真由美・神宮寺恵子

以上15名

成績：7カ国8都市が参加し、第4位

⑤第18回北京国際元老网球大会

主催：北京市网球協会 北京市元老网球協会、北京市国際体育交流中心

期日：平成17年10月22日～26日

種目：年令別男女単複 25種目・混合複 2種目

参加資格：JTAへの選手登録の有無を問わない自由参加、知人、友人、家族の参加も
可とする。

7. 財団法人日本体育協会、日本スポーツマスターズ委員会への出席

①スポーツマスターズ2005大会第1回連絡会議

期日：平成17年4月21日

場所：日体協理事監事室（2F）

- 出席者：中西伊知郎委員、帆足佳子（事務局）
- ②スポーツマスターズ2005大会第1回マスターズ委員会
期日：平成17年7月14日
場所：日体協理事監事室（2F）
出席者：中西伊知郎委員、帆足佳子（事務局）
- ③スポーツマスターズ2005大会組合せ抽選会
期日：平成17年8月4日
場所：岸記念体育館 402号会議室
出席者：土屋善二大会アシスタントディレクター（ベテラン委員長）、
野崎拓哉大会アシスタントディレクター、土肥 博大会レフェリー、
他JTAベテラン常任委員2名
- ④スポーツマスターズ2005大会第2回連絡会議
期日：平成17年9月5日
場所：日体協理事監事室（2F）
出席者：土屋善二ベテラン委員長、帆足佳子（事務局）
- ⑤スポーツマスターズ2005大会第3回連絡会議
期日：平成17年11月24日
場所：日体協理事監事室（2F）
出席者：土屋善二ベテラン委員長、帆足佳子（事務局）

マーケティング本部 企画委員会（委員長：高橋 甫）

1. テニスをする場と機会の確保プロジェクト

- 1 「テニスをする場と機会の確保プロジェクト」分科会を立ち上げ、中学生を中心とした青少年層のテニス普及にとっての問題点を検討、平成18年度の具体的な行動の方向づけを行う。

2. テニス界活性化のための中長期的企画・立案

- ①JTA2006-2010年ビジョンの骨格案を4月に作成、それに基づき、中長期ビジョン策定のためのヒアリングの実施。その改訂骨格案をJTA常務理事・本部長8月会議で報告。
- ②「JTA中長期ビジョン策定の意義」と題する調査報告を策定、JTA常務理事・本部長3月会議で報告。

3. JTAの収益拡大諸施策の立案

- ①「収益事業としてのJTAマーチャンダイジング事業提案」のための基礎調査の実施。
- ②「JTAオフィシャルグッズ収益事業化構想」を作成、JTA常務理事・本部長8月会議で報告。
- ③上記提案に基づく平成17年度モデル事業としてJTAオフィシャルTシャツを製作、平成17年度下半期に販売。
- ④以上の活動に基づき、「JTAマーチャンダイジング事業化－平成17年度事業計画の評価と今後の方向性」を作成、JTA常務理事・本部長3月会議で報告。

4. スポーツマーケティング調査

- ①スポンサー向けプレゼン資料「テニスとは」を作成、JTA常務理事・本部長12月会議で報告。
- ②中・長期的なスポーツマーケティングの企画例（例えばサッカー）とスポンサー獲得に関する基本調査として、「スポーツマーケティング調査」報告書を策定、JTA常務理事・本部長3月会議で報告。

(4) その他

- ①総務本部との協力により、「日本テニス協会役職・機関等の英文表記」の策定、JTA常務理事・本部長9月会議で了承。

- ②フェドカップ、AIG ジャパンオープンにおいて大会総務委員会の下、在京大使館関係者を含むVIP 接受を担当。
- ③普及指導本部との連携により、ITN デモンストレーションのための配布資料の策定、全日本選手権、テニスの集い等で配布。
- ④国際大会委員会と共に、観るテニス普及のための告知資料「国内開催の国際テニス大会を見に行こう」の作成、東レ PPO の JTA コーナー等で配布。

マーケティング本部 プロモーション委員会（委員長：金森 悟）

1. テニスの普及及び指導

- (1) 年間各大会を通じてのテニスファン（テニスサポーター）、テニス選手、マスコミ・メディア、スポンサーの為にサービス活動、及び、「観るテニス」の普及支援活動。
 - ①フェドカップ ブルガリア戦（7月9日・10日／有明コロシウム）
 - ・インフォメーションカウンター、VIP 対応を含むサービス面での大会運営全面協力
 - ・観客動員数：6,821 名
 - ・観客動員活動／告知 PR 施策
 1. マスコミ：読売新聞（チラシ 100 万枚）、TBS ラジオ・ラジオ日本（番組紹介）
 2. テニスショップ：ウィンザーテニスショップ 11 店舗にてチラシ 1000 枚配布
 3. Web サイト： tennis365.net（スポーツバンガード社）
 4. 小中学校テニス部（関東地区）約 1,200 校に招待のご案内送付。
 5. 協賛団体募集：一口 5 万円（チケット 30 枚、プログラム掲載&2 冊付与）
 6. 応援団、チアリーダーの動員
 - ②テニスの日（9月23日／有明テニスの森公園・コロシウム）
 - ・運営への全面協力。運営ボランティア 22 名の動員。
 - ③AIG Japan Open（10月3日～9日／有明テニスの森公園・コロシウム）
 - ・インフォメーションカウンター、VIP 対応を含むサービス面での大会運営全面協力。
 - ・観客動員数：シャラポワ不在、男子有力選手の欠場にも関わらず、46,114 人を動員。
 - ・観客動員活動／告知 PR 施策
 - 1) マスメディア、有明のパナソニック大型ビジョンを活用するなど各種 PR 施策を実施。
 - 2) BS ラジオ(プレゼント応募約 100 通)、Nack5(プレゼント応募約 100 通、大会初日にはレポーター取材)、文化放送(プレゼント応募 30 通)で放送。
 - 3) HK テレビにて、大会前日のニュースで森田あゆみ、一藤木選手のインタビューを放送。
 - ・観客サービスイベント運営

ゲスト&チャンピオン、ターゲットナイン、サーブスピードコンテスト、サービスリターンコンテスト、JTA 抽選会、大道芸人招聘、及び、医事委員会主催メディカルセミナー協力。

また、上記に加えて初の企画「テクニカルセミナー」を実施。コート上での選手の特別レッスン企画。初の実施にも関わらず 83 名の参加があり大盛況。イベント後も参加者から大満足との喜びの声あり。右近選手委員会委員長始め、多数の選手のご協力。
 - ④ニック全日本テニス選手権大会（11月13日～20日／有明テニスの森公園・コロシウム）
 - ・インフォメーションカウンター、VIP 対応を含むサービス面での大会運営全面協力。
 - ・観客動員数：27,974 人（前年比 101%）
 - ・観客動員活動／告知 PR 施策
 - ・観客サービスイベント運営

ターゲットナイン、サーブスピードコンテスト、JTA 抽選会、及び ITN（インターナショナルテニスナンバー）スタートキャンペーン協力
 - ⑤年間各種大会共通事業
 - ・上記の JTA 主管大会及び東レ PPO において、JTA ブースの開設及び運営・・・JTA か

らの各種告知活動(広報メルマガ及び動画サイト案内、国内年会大会スケジュール案内、マナーキッズプロジェクト案内、テニスメディカルセミナー案など)、及び、クラブ JTA 勧誘活動を実施、JTA 販売物(テニス指導教本、コートの友、メディカルセミナー CD-ROM、ITF コーチマニュアル、テニス資料館設立準備に関するテニス絵葉書、及び企画委員会の企画製造グッズ)の販売協力、グラントスラムグッズの販売協力
・大会運営を支えて頂く一般ボランティアの方々とのネットワーク拡充。現在約百人超の規模。

マーケティング本部 クラブ JTA 推進委員会 (委員長：橋本 有史)

1. クラブ JTA 会員の増強と会員組織、運営体制整備

- ①会員増強については平成 17 年 3 月 31 日において 822 名の会員にたいして平成 18 年 3 月 24 日現在で 877 名の会員となり 55 名の増加となった。
新規の会員の獲得が進む中で、退会者も多く課題を残す結果となった。
- ②有明にて開催されたフェドカップブルガリア戦、AIG オープン、全日本選手権大会においてクラブ JTA コーナーを開設し会員サービスに努めるとともに新規会員募集を行い一定の成果はあげた。
- ③クラブ JTA の PR のための広告およびポスターを作製した。これらは今後のクラブ JTA の PR 活動に広く利用する予定である。

2. 地域におけるクラブ JTA サポートのお願い

- ①クラブ JTA 全国委員会を通じて、各地域へのクラブ JTA サポートをお願いし、青森県、宮城県、愛媛県のテニス協会にクラブ JTA サポート大会を開催して頂いた。また関西テニス協会に特にクラブ JTA の PR の面でご協力を頂いた。
- ②各地域協会への還元として合計 236 万円(昨年度は 215 万円)の還元を行った。

3. 委員会の開催

- ①地域協会推薦の委員も含めた全国会議を 7 月 30 日に実施し、平成 16 年度の報告およびクラブ JTA の推進方法の検討、クラブ JTA の PR、会員募集の依頼を行った。
- ②このほか在京の委員にて毎月委員会を開催し、有明におけるイベントに対する打ち合せ、会員サービス等の検討を行った。

ジャパンオープン本部 ジャパンオープン委員会 (委員長：有沢 三治)

1. AIG ジャパンオープン 2005 の開催

今年の大会は当初参加を予定していた男子のサフィン選手を始め、ヘンマン、ガウディオ等のトップ選手の欠場により、チケットの事前購入者の一部からは払い戻し要求、或いは、詐欺等との批判の声もあった。欠場の理由について説明しご理解を頂いたが、大変厳しいスタートとなった。

大会は途中降雨に見舞われ、コロシアムの屋根を閉めるなどで、試合が遅れ連日夜中までの開催になる等、厳しい日程が続いたが役員の皆様のご努力で無事終了する事が出来た。集客は昨年より約 9700 人程減となったが、46、114 人の動員で、特に土曜日の観客数は 11、176 人の過去最多を記録出来た。

試合は連日夜中までの熱戦で多くの観客は遅くまで残り大変盛り上がり、特に男子ダブルスで鈴木・岩淵組が準決勝で第 1 シードのアーサーズ、ハンリー組(オーストラリア)を、決勝では第 2 シードのアスペリン、ペリー組(オーストラリア、スウェーデン)をそれぞれ破り、1970 年にツアーが始まって以来、日本人のペアが初優勝の快挙を飾った。

男子シングルスはノーシードの W・ムーディ(南ア)が第 5 シードの M・アンチッチ(クロアチア)をフルセットで破り初優勝。女子シングルスは第 2 シードのバイディソバ(チエコ)と第 3 シードのゴロビン(フランス)との若手スター選手同士の対決となったが、

ゴロビンのアキレス腱痛による途中棄権でバイデイソバが優勝した。

(1) 観客サービス

- ① 会場の広場内に大型スクリーンを設置し、コロシアムの試合の映像を映した事で大変好評であった。今後大会の色々な情報を流す事で観客サービスの向上を図って行きたい。大道芸人によるパフォーマンス等毎年多くのイベントを開催して観客に喜んでいただいているが更に充実して行きたい
- ② 飲食関係について、今年はホットドックのネイサンズを新たに出店、2階にも出店して観客に対応したのでそれなりの好評を得た。会場内の飲食はまだまだ種類、内容、値段等において改善の余地が多い。今後も努力し改善に努めて行きたい
- ③ お祭り広場 今年ブース前のお客さんの通り道を歩き易く改善したので、多くの観客がブースのショッピング等を大変楽しんでいただけたと思う。来年は広場全体が平坦に改修されるとの事であり更に使い易くなる事で多に期待したい。
- ④ 今年は1、2番コートの観客席の増設、3、4番コートには観戦し易いよう仮設スタンドを設置し観客サービスを図った事で、観客の好評を博したので今後も続けて行きたい
- ⑤ ボランティアの活躍は益々充実され、観客サービスも素晴らしく好評を博しており今後も多に期待したい。

(2) スポンサーサービス

- ① 男子のトップ選手の不参加はあったものの、期間を通じての観客動員は昨年と比べてもそれほどの減少はなく、大会の認知が浸透し、A I G O P E Nの定着が感じられた。
- ② 今回日本の若手選手の参加と、女子ではベスト4に全員10代選手が進出するなど多に話題になった。
- ③ またNHKや他民放局、各新聞メディア、インターネットウェブサイト上での大会タイトル「A I G オープン」のタイトルの露出で大会名が定着した。
- ④ 上記の露出広告効果で今大会でのスポンサーも大いに満足いただけたと感じた。今後はスポンサーの要求でクリニック等を通じて全国展開を図りたい。

(3) 選手サービス

選手へのサービス向上としてバス輸送の充実、昼食の充実、ホテルにおける朝食の充実化を図った。全般的には好評であった。しかし海外の一流大会に比べるとまだまだ見劣りする部分も多く、今後少しずつでも改善して行きたい。

(4) 総括

上にも述べたが2005大会はトップ選手の相次ぐ欠場と荒天にたたられた大会では有ったが役員皆さんの機敏な対応で無事に乗り切ることが出来た。徐々に大会への観客が増えてくると共に大会での作業が多くなりノウハウの蓄積が大切である。更なる発展の為には専門家の養成も必要になる。

ナショナルチーム (ゼネラルマネージャー 小浦武志)

1. デビスカップへの参加

- ① デビスカップ 2005 アジア/オセアニアゾーン・グループ I プレーオフ 日本対タイ
期 日：7月15日～17日 会 場：なみはやドーム
監 督：竹内 映二 スーパーバイザー：ボブ・ブレット コーチ：増田 健太郎
ドクター：奥平 修三 トレーナー：山下 且義
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選 手：鈴木 貴男/本村 剛一/岩渕 聡/添田 豪
結 果：4勝1敗で勝利、来年度のアジア/オセアニアゾーン・グループ I 残留決定
- ② デビスカップ 2006 アジア/オセアニアゾーン・グループ I 1回戦 日本 対 中国

期 日：2月10日～12日 会 場：なみはやドーム
監 督：竹内 映二 スーパーバイザー：ボブ・ブレット コーチ：増田 健太郎
ドクター：奥平 修三 トレーナー：山下 且義
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選 手：添田 豪／本村 剛一／岩渕 聡／松井 俊英
結 果：5勝0敗で勝利、アジア／オセアニアゾーン・グループI 2回戦進出が決定

2. フェドカップへの参加

①フェドカップ2005 ワールドグループII 1回戦 チェコ 対 日本

期 日：4月23日・24日 会場：チェコ プラハ
監 督：植田 実 コーチ：駒田 政史
ドクター：金森 章浩 トレーナー：村木 良博
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選 手：森上 亜希子 / 中村 藍子 / 藤原 里華 / 小畑 沙織
結 果：2勝3敗で敗退、ワールドグループII プレーオフ進出

②フェドカップ2005 ワールドグループIIプレーオフ 日本 対 ブルガリア

期 日：7月9日・10日 会場：東京：有明コロシアム
監 督：植田 実 コーチ：駒田 政史
ドクター：金森 章浩 トレーナー：村木 良博
ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
選 手：森上 亜希子 / 中村 藍子 / 藤原 里華 / 小畑 沙織
結 果：4勝1敗で勝利、来年度のワールドグループII部残留が決定

3. 第23回ユニバーシアード競技大会(2005/イズミル)への参加

期 日：8月11日～21日 会 場：トルコ・イズミル
監 督：右近 憲三 コーチ：宮地 弘太郎 / 道上 静香
トレーナー：坂口 恭弘
選 手：宮尾 祥慈 / 宮崎 靖雄 / 軸丸 真志 / 酒井 祐樹
選 手：道慶 知子 / 矢部 由希子 / 波形 純理 / 前川 綾香
結 果：男子シングルス 宮崎：9位 軸丸：2R
男子ダブルス 宮尾・宮崎：5位
女子シングルス 波形：2R 前川：2R
女子ダブルス 道慶・波形：3位 銅メダル
混合ダブルス 宮尾・道慶：3位 銅メダル

4. 第4回東アジア競技大会(2005/マカオ)への参加

期 日：10月29日～11月6日 会 場：中華人民共和国特別行政区マカオ
監 督：植田 実 コーチ：増田 健太郎 / 駒田 政史
トレーナー：中尾 公一 マネージャー：田島 孝彦
選 手：松井 俊英 / 岩見 亮 / 竹内 研人 / 杉田 祐一
選 手：米村 知子 / 波形 純理 / 山本 麻友美 / 森田 あゆみ
結 果：男子シングルス 松井：2位 銀メダル 岩見：2R
男子ダブルス 松井・岩見：3位 銅メダル 竹内・杉田：2R
女子シングルス 波形：3位 銅メダル 森田：2R
女子ダブルス 山本・米村：2位 銀メダル 波形・森田：2R
混合ダブルス 竹内・山本：2R 杉田・米村：2R

5. ナショナルジュニア海外遠征

<団体戦>

①ジュニアデビスカップ アジア／オセアニア予選

期 日：5月2日～5月7日 会 場：フィリピン・マニラ
監 督：村上 武資 選 手：錦織 圭 / 喜多 文明 / 松尾 友貴
結 果：優勝(世界大会進出)

②ジュニアフェドカップ アジア／オセアニア予選

期 日：5月4日～15日 会 場：タイ・バンコク
監 督：岩本 功 選 手：大澤 愛加／秋田 史帆／山本 愛
結 果：6位（15か国中6位で予選敗退）

③ワールドジュニア アジア／オセアニア予選

期 日：5月11日～22日 会 場：オーストラリア・メルボルン
監 督：（男子）谷澤 英彦／（女子）山本 育史
選 手：（男子）鈴木 昂／内山 靖崇／関口 周一
（女子）伊従 智子／奈良 くるみ／高山 千尋
結 果：（男子）3位（世界大会進出）／（女子）3位（世界大会進出）

④ワールドジュニア 世界大会 男子

期 日：8月8日～13日 会 場：チェコ・プロステヨフ
監 督：谷澤 英彦 選 手：鈴木 昂／遠藤 豪／関口 周一
結 果：5位

⑤ワールドジュニア 世界大会 女子

期 日：8月8日～13日 会 場：チェコ・プロステヨフ
監 督：山本 育史 選 手：土居 美咲／奈良 くるみ／高山 千尋
結 果：準優勝

⑥ジュニアデビスカップ 世界大会

期 日：9月23日～10月5日 会 場：スペイン・バルセロナ
監 督：村上 武資 選 手：錦織 圭／喜多 文明／三橋 淳
結 果：5位

<個人戦>

①U18 ヨーロッパ遠征

期 日：5月17日～6月30日
遠征先：イギリス
コ ー チ：村上 武資／谷澤 英彦
選 手：（男子）竹内 研人／会田 翔／鶴沢 周平 （女子）瀬間 絵里加

②トヨタジュニア遠征（女子）

期 日：6月22日～7月19日
遠征先：インドネシア、オーストラリア2週
コ ー チ：岩本 功／金子 英樹
選 手：重藤 真知子／山本 愛／岩崎 舞／秋田 史帆

③トヨタジュニア遠征（男子）

期 日：6月22日～7月18日 遠征先：インドネシア、タイ2週
コ ー チ：村上 武資
選 手：三橋 淳／富崎 優也／大野 貴央／ロンギ正幸

④U14 ヨーロッパ遠征

期 日：6月29日～8月15日（男女引き続きワールドジュニア世界大会に出場）
遠征先：フランス、ドイツ、ベルギー
コ ー チ：白田 浩史／濱浦 貴光／谷澤 英彦／山本 育史
選 手：関口 周一／鈴木 昂／遠藤 豪
選 手：奈良くるみ／高山 千尋／土居 美咲

⑤全米オープンジュニア遠征

期 日：8月26日～9月9日 遠征先：アメリカ
コ ー チ：村上 武資 選 手：会田 翔／竹内 研人

⑥U18 アジア遠征

期 日：11月10日～11月28日 派遣先：インドネシア
コ ー チ：井本 善友 選 手：守屋 宏紀／関口 周一／鈴木 昂／伊従 智子

⑦U14 アジア選手権遠征

期 日：11月20日～12月3日 派遣先：インド
コ ー チ：藤井 道雄

選手：斉藤 秀／喜多 元明／金城 充
選手：石津 幸恵／美濃越 舞／大塚 弥生

⑧U18 マレーシア遠征

期 日：11月27日～12月9日 派遣先：マレーシア
コーチ：村上 武資 選手：三橋 淳／山本 愛

⑨U14 アメリカ・メキシコ遠征

期 日：12月1日～12月19日 派遣先：アメリカ
コーチ：谷澤 英彦

選手：鶴沢 周平／会田 翔／杉田 祐一／越野 油梨奈

⑩U18 春季アジア遠征

期 日：1月4日～29日 派遣先：マレーシア・フィリピン
コーチ：谷澤 英彦／村上 武資

選手：会田 翔／杉田 祐一／守屋 宏紀／松尾 友貴／越野 油梨奈

⑪全豪オープンジュニア遠征

期 日：1月4日～29日 派遣先：オーストラリア

コーチ：村上 武資 選手：会田 翔／杉田 祐一／鶴沢 周平

⑫U16 南米遠征

期 日：1月23日～3月19日 派遣先：ペルー、ボリヴィア、チリ、ウルグアイ、ア
ルゼンチン、パラグアイ、ブラジル

コーチ：井本 善友／岩本 功／有本 尚紀

選手：三橋 淳／ロンギ正幸／山本 愛／井上 明里

⑬U16 オーストラリア遠征

期 日：2月16日～3月12日 派遣先：オーストラリア

コーチ：藤井 道雄 選手：守屋 宏紀／綿貫 祐介／小城千菜美／伊従 智子

5. デビスカップ強化合宿

①デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループ I 1回戦 日本 対 台湾

第1次強化合宿（期日：2月20日～2月26日、会場：荏原湘南スポーツセンター）

コーチ：竹内 映二／ボブ・ブレット／増田 健太郎

選手：本村 剛一／鈴木 貴男／トーマス嶋田／松井 俊英／添田 豪／
寺地 貴弘／石井 弥起／藤井 貴信／岩見 亮／加藤 純／宮尾 祥慈

第2次強化合宿（期日：3月4日～6日 会場：台北 ソレアダ・クラブ）

コーチ：竹内 映二／ボブ・ブレット／増田 健太郎

選手：本村 剛一／鈴木 貴男／トーマス嶋田／添田 豪／松井 俊英

②デビスカップ アジア／オセアニアゾーン・グループ I プレーオフ 2回戦

日本対タイ

第1次強化合宿（期日：7月4日～7月10日、会場：大阪 江坂テニスセンター）

コーチ：竹内 映二／ボブ・ブレット／増田 健太郎／井本 善友

選手：本村 剛一／鈴木 貴男／添田 豪／松井 俊英／岩渕 聡／宮崎 靖雄
井藤 祐一／一藤木 貴大／岩見 亮／錦織 圭／石井 弥起／
竹内 研人／会田 翔／杉田 祐一／鶴沢 周平／

第2次強化合宿（期日：7月11日～14日、会場：なみはやドーム）

コーチ：竹内 映二／ボブ・ブレット／増田 健太郎／井本 善友

選手：本村 剛一／鈴木 貴男／添田 豪／松井 俊英／岩渕 聡／井藤 祐一
一藤木 貴大／錦織 圭

③ボブ・ブレット 福岡デ杯ミニキャンプ

（期日：5月13日～20日 会場：福岡グローバルアリーナ）

コーチ：ボブ・ブレット／プロジェクトマネージャー：塚越 亘

6. フェドカップ強化合宿

①フェドカップ ワールドグループ II 1回戦 チェコ 対 日本 強化合宿

（期日：4月17日～22日、会場：チェコ・プラハ）

コーチ：植田 実／駒田政史

スタッフ：村木良博／茂木奈津子／金森章浩／富岡信人／田島孝彦

選手：森上亜希子／小畑沙織／藤原里華／中村藍子

②ワールドグループIIプレーオフ ブルガリア 対 日本 強化合宿

第1次強化合宿（期日：6月28日～7月2日、会場：国立科学スポーツセンター）

スタッフ：小浦 武志／植田 実／梅林 薫／村木 良博／田島 孝彦／

駒田 政史／井上 直子／小屋 菜穂子／中村 寛孝／江口 淳一／道上
静香

選手：波形 純理／濱村 夏美／瀬間 友里加／田中 真梨／宮村 美紀／
宮崎 優実／津布久 萌／高雄 恵利加

第2次強化合宿（期日：7月3日～7月8日 会場：有明コロシアム）

7. ユニバーシアード強化合宿等

①ユニバーシアード男子 候補選手 第1次練習会

（期日：5月13日～20日 会場：グローバルアリーナ）

②ユニバーシアード女子 候補選手 第1次練習会

（期日：4月28日～5月2日 会場：長良川テニスプラザ）

スタッフ：小浦 武志／植田 実／澁谷 隆良／細木 祐子／道上 静香

③ユニバーシアード男子 候補選手 第2次練習会

（期日：5月24日～27日 会場：グローバルアリーナ）

④ユニバーシアード男女合同 事前合宿

（期日：8月3日～5日 会場：昭和の森テニスクラブ）

スタッフ：澁谷 隆良／右近 憲三／細木 祐子／宮地 弘太郎／道上 静香
坂口 恭弘

8. ジュニア強化合宿

①修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

（期日：4月5日～7日 会場：東山公園テニスセンター）

スタッフ：松岡 修造／竹内 映二／他修造チャレンジスタッフ

②修造チャレンジ トップジュニアキャンプ

（期日：11月8日～13日 会場：荏原湘南スポーツセンター）

スタッフ：ボブ・ブレット／松岡 修造／竹内 映二／他修造チャレンジスタッフ

③U12 修造チャレンジ ジュニアキャンプ（西日本）

（期日：3月8日～10日 会場：シーサイドテニスガーデン舞洲）

スタッフ：松岡 修造／他 修造チャレンジスタッフ／JTA ナショナルコーチ
JTA スポーツ科学委員

④U12 修造チャレンジ ジュニアキャンプ（東日本）

（期日：3月15日～17日 会場：エストレーホテル&テニスクラブ）

スタッフ：松岡 修造／他 修造チャレンジスタッフ／JTA ナショナルコーチ
JTA スポーツ科学委員

⑤ジュニアナショナル選手選考測定合宿

（期日：11月11日～12日 会場：国立科学スポーツセンター）

スタッフ：JTA ナショナルコーチ／JTA スポーツ科学委員

⑥ジュニアナショナル選手選考測定合宿

（期日：1月7日～8日 会場：国立科学スポーツセンター）

スタッフ：JTA ナショナルコーチ／JTA スポーツ科学委員

⑦埼玉 G5 キャンプ

（期日：1月9日～15日、会場：グリーンテニスプラザ）

スタッフ：谷澤 英彦／山本 育史／JTA スポーツ科学委員

9. ナショナルコーチによる国際大会視察ならびに国内大会視察の実施

4月のトヨタジュニアを始め、各主要大会を視察。

10. オリンピック強化指定選手の認定

JOC に対し、下記の男子 9 選手、女子 8 選手の計 17 選手を申請し、認定を得た。

男子：鈴木 貴男／本村 剛一／添田 豪／寺地 貴弘／松井 俊英／岩見 亮
岩渕 聡／小野田 倫久／加藤 純

女子：杉山 愛／浅越しのぶ／小畑 沙織／藤原 里華／森上亜希子／中村 藍子／
不田 涼子／佐伯 美穂

強化企画本部 強化システム委員会（委員長：藤井 道雄）

1. 年齢別ジュニア特別強化指定選手制度の推進

2004 年度よりスタートした上記制度は 2005 年度も継続して実施され、選考した 12 名の選手は、2005 年の 1 年間の切磋琢磨を通して自己のテニスのレベルを向上させた。2006 年 1 月の全豪オープンジュニアにおいて男子は 5 名の選手が、女子は 1 名の選手が本戦出場を果たし、活躍した。

ただナショナルコーチと各選手をあずかるホームコーチとの連携が必ずしもうまくいかなかった選手も存在した。この課題を 2005 年 4 月に発足したナショナルチームに委ねることとなった。

2. ナショナルトレーニングセンター設立に向けての環境の整備

盛田会長・渡邊専務理事・坂井強化企画本部長の精力的な関係各部署への働きかけの結果、ようやく平成 19 年末完成の予定となった。今後はナショナルチーム他関係部門との連携の下、運営体制等の検討の段階に入る。

3. 前ジュニア委員会が受け持っていた制度の見直しと設定

①全国ジュニアランキングシステムは、2005 年度よりトライアルとしてスタートさせたが、対象大会が少ないこともあってその活用はまだ課題を残した。平成 19 年度運用開始に向けたプロジェクトチームを作り、さらに検討を進めることとした。

②ジュニア大会の見直しについても 2005 年度中には具体的な成果は得られなかった。この問題は一朝一夕にはいかないところもあり、検討プロジェクト委員会を結成、継続審議することとした。

③ジュニア大会規程の見直し

ジュニアナショナルメンバー制度が発足したことにより、ジュニア大会規程のうちワイルドカードに関する事項について見直し、改訂を実施した。

4. ジュニア国際大会に参加する選手を引率するコーチへの指導マニュアルの作成

指導マニュアルという具体的な形として残すことはできなかったが、各ジュニア大会を通じて大会期間中に選手を引率するコーチとの講習会を開催し、指導マニュアルに代わる啓蒙活動を実施した。

強化企画本部 スポーツ科学委員会（委員長：梅林 薫）

1. JTA ナショナル強化指定選手のスポーツ科学的サポート

JTA ナショナル強化指定選手においては、JISS(国立スポーツ科学センター)および大阪市中央体育館健康体力相談室において、体力およびメンタルの分析そしてトレーニング指導を行った。特に今回は、デ杯強化合宿の初日において、デ杯候補選手およびジュニア選手に対して、大阪市中央体育館にて、フィジカルチェックを行った。

2. 地域ジュニア選手に対してのトレーニング・測定合宿の開催

地域から選抜されたジュニア選手に対して、国立スポーツ科学センター(JISS)にて、トレーニング・測定合宿を行った。体力、メンタル、栄養面、メディカル面の測定とその指導を中心に行った。地域のトレーニング関係のコーチとのミーティングも行い、それぞれ、ディスカッションを行った。また、体力トレーニング指導として、ウォーミングアップの

方法、また、体力トレーニング（試合期、トレーニング期）の実践指導も行い、選手に対していろいろな情報を提供した。実際に行われた映像については、DVDで配布した。（ヨネックス財団助成金対象事業）

3. ITF コーチワークショップへの参加

2005年の10月17日から23日までの7日間、トルコのアンタリアでITFコーチワークショップが開催された。日本からは、梅林（委員長）と須田委員、ナショナルから井本コーチが参加した。今回のテーマは、『質の高いコーチングを考える』ということであり、技術、戦術、体力、メンタル、栄養、メディカルなどの幅広い分野での発表が行われた。今回の内容については、JTAのホームページ（スポーツ科学情報）に記載した。今後も科学委員会としては、このワークショップに積極的に参加していく方向である。

4. デ杯、フェド杯の戦術・ゲーム分析

2005年、7月9日、10日に有明コロシアムで開催されたフェド杯（対ブルガリア戦）、7月15日から17日の3日間、大阪で開催されたデ杯（対タイ戦）、2006年、2月10日から12日の3日間、大阪で開催されたデ杯（対中国戦）の戦術・ゲーム分析を行った。戦術担当委員により、VTRカメラを用いて、試合撮影を行い、監督・コーチに対して、得られた映像や分析データの即時フィードバックによる科学的サポートを行った。できる限り、分析データが現場に活かされるように、努力した。

5. JISS 委託研究事業

2005年度の国立スポーツ科学センター（JISS）・スポーツ医科学研究事業を行った。テーマは、『強化指定選手の各技術に関するバイオメカニクス的分析』である。この研究の目的は、JISSの施設を活用し、強化指定選手の各技術（サーブ、グラウンド・ストローク）のバイオメカニクス的分析を行い、技術改善、向上に役立つデータや知見を引き出すことである。2005年10月25日から27日の3日間、強化指定選手（東アジア競技大会出場選手6名）を対象に、JISSにて測定を行い、分析し、その結果について、選手本人に伝達した。この結果については、2006年のJISSでのコーチ会議で発表する予定になっている。

6. トレーニングセンターシステムにおける地域スポーツ科学サポート体制の整備・確立

昨年に引き続き、地域協会と連携して、地域トレーニングセンター設置に基づくスポーツ科学サポートの実施体制を確立することを目的として、各地域のスポーツ科学に関する施設・情報等の調査を行い、その実態の把握を行った。今後、さらに地域のスポーツ科学サポートを充実させていく上でも、地域のハード面およびソフト面の調査および情報の共有を積極的に行い、中央と地域とがスポーツ科学に関する情報をお互いに伝達できるシステムの開発をさらに推進していくことが重要であると認識できた。ホームページにおいては、スポーツ科学情報の部門が立ち上がり、今後は、ここの充実化を図っていくことが確認された。

7. ナショナルチームとの体力トレーニングに関する合同ミーティングの開催

2006年3月20日、21日とJISSにおいて、スポーツ科学委員会（体力トレーニング担当委員）とナショナルコーチとの合同ミーティングを行った。今回の目的は、ナショナルコーチと体力トレーニング担当との今後の体力・技術トレーニングの内容の検討であった。今回は、ウォーミングアップを中心として、効果的なウォーミングアップについて理論と実践でディスカッションを行った。ある程度の共通理解ができ、この結果は、今後の帯同するジュニア選手の遠征に活用することが確認された。今後も、このようなミーティングを続けていくことも確認された。

8. ナショナル強化指定選手選定のための合宿へのサポート

ナショナル候補選手に対して、体力面からのサポートを行った。2005年の12月、そして2006年の1月にJISSにて合宿を行い、フィールドテストを中心とする測定を行った。結果については、総合的な体力指標を各選手ごとに算出し、その結果、今後の体力トレーニングの方法についても、指導を行った。

普及指導本部 一貫指導体制推進委員会（委員長：井上 喜代志）

一貫指導理念の下に、ナショナル TC を頂点としたトレセン構想の推進を図り、NTC ナショナルコーチと地域代表コーチ、都府県代表コーチの指導理念を共有することを狙いとして開催した。14 歳以下のジュニアを対象として、将来の伸び代を与える「基本」の捉え方をテーマに伝達講習合宿を実施、NTC テクニカルコーチ、S&C コーチの 2 名を 9 地域、8 ブロックに派遣した。

1. 地域ジュニア及び指導者強化合宿と地域トップとの懇談会

北海道	2006 年 2 月 4 日～ 5 日	札幌市	宮の沢競技場
東北	2006 年 1 月 28 日～29 日	岩手県紫波町	インドアテニス
北信越	2006 年 3 月 11 日～12 日	石川県鯖江市	TEAM プレジャー
関東	2006 年 1 月 7 日～ 9 日	千葉県白子町	アポロコースト TC
東海	2005 年 11 月 24 日～25 日	浜松市	花川運動公園テニスコート
関西	2005 年 11 月 5 日～ 6 日	加西市	アオノリゾート TC
中国	2005 年 9 月 23 日～24 日	尾道市	びんご運動公園
四国	2006 年 1 月 14 日～15 日	鳴門市	鳴門総合運動公園
九州	2005 年 9 月 24 日～25 日	福岡市	博多の森運動公園テニス場

☆地域代表のテクニカルコーチと S&C コーチの養成、組織化をほぼ完了した。

☆地域トップと JTA 一貫指導体制推進委員会との連携について懇談会を開催。

2. ブロックジュニア及び指導者強化合宿

山形	2005 年 11 月 26 日～27 日	酒田市	酒田かんぼの郷
長野	2005 年 11 月 5 日～ 6 日	松本市	南部屋内運動場
栃木	2005 年 11 月 4 日～ 6 日	矢板市	コリーナ矢板
静岡	2006 年 1 月 14 日～15 日	沼津市	ウェルサンピア沼津
兵庫	2006 年 1 月 28 日～29 日	加西市	アオノ・スポーツ・センター
広島	2005 年 12 月 28 日～30 日	西条市	広島大学テニスコート
香川	2005 年 10 月 1 日～ 2 日	東かがわ市	白鳥中央公園
熊本	2006 年 1 月 27 日～29 日	熊本市	パークドーム熊本

☆ブロック合宿は、ブロックトレーニングセンター構想のサポート事業として、8 都府県で開催した。

普及指導本部 指導者育成委員会（委員長：飯田 藍）

事業区分：4〔テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定〕

事業名：オリンピックへ向けて「発掘・育成・強化」コーチ養成及びテニス普及を担う指導者の資質の向上を目的とした事業を推進する。

事業内容：公認指導員養成事業及び検定会・研修会の開催と教育プログラムの制作を行う

1. 公認資格認定に関する(コーチ・上級コーチ・教師・上級教師)検定会を実施。

コーチ・上級コーチ・上級教師の検定会（予定 10 月～2 月）

下記の通り公認資格認定に関する検定会を実施した。

- ①コーチ：前期 大阪 2005 年 11 月 23 日～25 日 参加者 40 名
後期 東京 2006 年 1 月 14 日～17 日 参加者 39 名
- ②上級コーチ：東京 2005 年 12 月 17 日から 21 日 参加者 17 名
- ③教師(専門学校)：東京 2006 年 2 月 20 日～23 日 参加者 66 名
- ④スポーツ指導員：茨城、福井、滋賀、大阪、兵庫、和歌山、島根、岡山、沖縄の各県で認定を行う。
- ⑤上級スポーツ指導員：北海道、神奈川、大阪の各県で認定事業を行う。

2. リフレッシュ講習会(上級コーチ・上級教師)を対象に2回(関西・関東)指導者のレベルアップの為、ライセンスを持った公認指導員を対象に研修会を後援・公認・開催
 - ①2005年9月19日に日本大学芸術学部講堂(東京)にてリフレッシュ講習会を後援
 - 2006年1月9日にサニーインむかい(千葉) リフレッシュ講習会を開催。
3. コーチーズカンファレンスの開催(3月中旬)
 - ①2006年2月26日～27日に昭和の森テニスクラブ及びフォレストイン昭和館において延べ600名の参加者で開催。
4. 全国講師研修会を地域マスターコーチ及び上級コーチを対象に研修会を開催。
 - ①2005年12月5日～6日に国立スポーツ科学センターにおいて日本体育協会助成事業の研修会を開催。参加者は100名であった。
5. マスターコーチ任命に伴う活動に関する事項の作成。
 - ①2006年10月20日付けで44名のマスターコーチの任命を承認した。
なお、マスターコーチは2006年4月から有効である。各自へ日本体育協会から任命書が発行される。
6. International Tennis Number の活用に関する事項(別紙資料)
 - ①Assessment Guide の冊子を発行
 - ②全日本選手権(11月)より公開デモを開始する。
全国講師講習会・カンファレンス・普及員講習会で説明会を開く。
7. 教育プログラムの制作

教育プログラムに関する会議を行なう(2005年5月14日)

ナショナルチーム・強化システム企画・トーナメント本部・普及指導本部との合同ミーティングに出席(9月)
8. S級ライセンスプロジェクト発足(2005年12月)

主催(財)日本テニス協会・(社)日本プロテニス協会との話し合いで立ち上げる。

協力(財)吉田記念テニスセンター・(社)日本テニス事業協会
9. 委員会開催
 - ①認定校専門学校の担当教員との会議を行う(2005年6月4日、2006年2月23日)
 - ②教師および上級教師の認定資格に関してプロテニス協会との打ち合わせを行う(2005年6月10日、2006年1月25日)
 - ③認定資格に関して日本体育協会と打ち合わせを行う。
 - ④全体会議を2005年4月17日、2006年2月25日に行なった。
 - ⑤東京・岸記念体育館にて開催された日本体育協会の「全国スポーツ連絡者会議」「公認コーチ養成講習会事務説明会」に出席。
 - ⑥随時、常任委員会を4回開催する。

普及指導本部 普及委員会(委員長:山本 由美子)

1. 「テニスの日」イベント実施

テニスの普及と発展を目的とし、テニス人口の増加ならびに新しいテニス愛好家の創出を目指して活動を行う。キャッチフレーズは”テニスコミュニケーション“開催期日は9月23日を中心に前後1週間を基本としている。

- ①個別イベントは全国312ヶ所で開催。参加者数は約24,000人
- ②共同イベントは都道府県テニス協会主催を中心に実施するが、今年は全国47都道府県が参加開催された。平均参加人数279名(昨年245名)。約13,000人。
今年には新潟県長岡市にて「震災復興激励特別テニスイベント」として松岡修造プロを派遣。長岡市の子供たちと元気なテニス教室を開催した。他に三重県、高知県へプロコーチを派遣して指導をお願いした。
- ③有明メインイベントは多くの著名選手の参加協力により、総勢350名のスタッフと共にイ

メントを盛り上げた。開催面数は20面プラスコロシウムコート。主なイベントは親子テニス、キッズテニス、ジュニアテニスクリニック、初心者対象レッスン、車椅子テニス、ターゲットテニス、親善試合など。参加者数は約4,500人。

2. キッズテニスの普及活動

「テニスの日」にむけてキッズテニスマニュアルを作成し、各都道府県で実施するときの参考資料となるようにした。キッズ向けとジュニア、大人向けの2種類作成。

- ①8月22日(月) ショートテニス全国大会 東京都体育館 審判の手伝い
- ②10月10日(月) 体育の日の行事 国立科学スポーツセンター 指導協力
- ③11月16日、30日の2日間 キッズテニス講習会 勝どき児童館 指導協力
- ④12月24日、25日の2日間 マナーキッズテニス幼稚園小学校全国大会 審判の手伝いとして協力

3. ITN システムの普及に協力

19年度より導入されるITNシステムの普及に協力しテニスの仲間作り、交流に役立つよう推進する。そのためのデモンストレーション実施に以下のように協力。

- ①9月25日 普及員認定講習会 国立科学スポーツセンター
- ②11月3日 ITN 導入練習会 須玉テニスコート
- ③11月19日、20日の2日間 全日本テニス選手権大会 有明の森
- ④1月18日 “テニスの集い” 会場 有明の森
- ⑤1月26日 コーチアスキャンファレンスにて 昭和の森

普及指導本部 環境委員会 (委員長：橋爪 功)

委員会の設立が初年度ということもあり、JOC スポーツ環境委員会とも連携をとり自然環境保全の観点から、調査・啓蒙・情報収集活動をおこなった。

1. テニス用品メーカーへの環境保全に関するアンケート調査の実施

環境保全の活動を、テニス関係者全てで進める観点から、ラケット・ボール・ストリングスなどのテニス用品メーカーに協力をお願いし、2005年秋に実施した。

内容は、商品の3R活動、環境問題に関する企業としての考え方について。

各社とも環境問題への関心は高いといえるが、リサイクル、リユースの取り組みについては差があり、今後テニス協会とのより一層の連携が必要である。(詳細は環境レポートに掲載)

2. 砂入り人工芝コートの廃棄に関する調査

ここ数年、全国的に砂入り人工芝のサーフェスが増加している。テニスの普及面、競技力向上からの観点に加え、環境面からも検討した。現状では、使用済みの砂入り人工芝のサーフェスは、リサイクルが不可能で、巨大な産業廃棄物となっている。産業廃棄物の最終処分場の視察も行った。

廃棄処理のコスト削減と、廃棄そのものをしないでその上にクレーの素材をのせて、クレーコートとして、使用している例(香川県屋島テニスクラブ)もあった。

3. 使用済みのボールのリユースとNPO グローバルスポーツアライアンス

ボールのリユースについて、先進的な活動を進めてきたNPO グローバルスポーツアライアンスの活動を各地に紹介した。また同法人の多彩な環境保全の活動に関して情報の提供をお願いし、各委員に紹介した。

4. JOC スポーツ環境委員会との連携

JOCの「この星にスポーツを」の横断幕やポスターの掲出について、昨年までの当協会主催大会に加え、2005千葉きらめき総体、関東ジュニア選手権大会、指導者講習会などでPRし、啓蒙活動の一助とした。

また「第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー」、および「第2回スポーツと環境担当者会議」に中原委員、橋爪委員長が出席し、JOCおよび各競技団体の環境保全への取り

組みに関して、交流を深め、委員会にフィードバックした。

5. 「環境レポート」の発行

上記の活動およびその他各委員の調査活動について、「環境レポート」を作成し、全国の地域および地方協会に配布すべく準備中である。(2006年5月予定)

6. 会議の開催その他

上記の活動を円滑にまた創造的に進めるため、全国委員会を2回(5月、2月)、常任委員会を2回(9月、2月)に開催した。

普及指導本部 幼稚園・小学校特別プロジェクト(ディレクター:田中 日出男)

1. マナーキッズテニスの積極的な普及

マナーキッズテニス教室を52場所、59日開催し、4,453人が参加した。

- 1) 北海道札幌市(一般公募型デモ教室、指導者講習中心)
平成17年4月16日(土)手稲区体育館 61名参加
- 2) 東京都杉並区(訪問指導型)
平成17年4月26日(火)三谷小学校体育授業3年生 395名参加
平成17年4月28日(木)三谷小学校体育授業2年生
平成17年5月12日(木)三谷小学校体育授業1年生
平成17年5月24日(火)三谷小学校体育授業4年生
平成17年6月7日(火)三谷小学校体育授業5年生
平成17年6月21日(火)三谷小学校体育授業6年生
平成17年11月12日(土)三谷小学校土曜日行事 50名参加
平成18年3月4日(土)三谷小学校土曜日行事 40名参加
- 3) 大阪府門真市(一般公募型デモ教室)
平成17年4月30日(土)なみはやドーム 84名参加
- 4) 岐阜県岐阜市(一般公募型デモ教室)
平成17年5月7日(土)長良川テニスセンター 65名参加
- 5) 福岡県福岡市(一般公募型デモ教室)
平成17年5月8日(日)博多の森テニスセンター 84名参加
- 6) 東京都墨田区(訪問指導型、総合型地域スポーツクラブ)
平成17年5月21日(土)スポーツドアあずま 66名参加
- 7) 埼玉県熊谷市(一般公募型デモ教室)
平成17年5月29日(日)くまがやドーム体育館 95名参加
- 8) 東京都杉並区(訪問指導型、土曜日行事)
平成17年6月11日(土)杉並区立第四小学校 75名参加
- 9) 和歌山県和歌山市(一般公募型デモ教室)
平成17年6月18日(土)和歌山県総合体育館 82名参加
- 10) 大阪府和泉市(一般公募型デモ教室)
平成17年6月19日(日)光明台北小学校 50名参加
- 11) 千葉県船橋市(一般公募型デモ教室)
平成17年6月26日(土)坪井小学校体育館 90名参加
- 12) 埼玉県戸田市(一般公募型デモ教室)
平成17年7月2日(土)芦原小学校体育館 94名参加
- 13) 北海道帯広市(一般公募型デモ教室)
平成17年7月9日(土)帯広の森テニスコート 69名参加
- 14) 北海道帯広市(一般公募型デモ教室)
平成17年7月10日(日)スパーク帯広 61名参加
- 15) 岩手県盛岡市(一般公募型デモ教室)

平成 17 年 8 月 7 日 (日) 白百合学園小学校体育館	44 名参加
16) 愛知県豊田市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 8 月 27 日 (土) 豊田市運動公園体育館	62 名参加
17) 茨城県牛久市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 3 日 (土) 牛久総合運動公園体育館	83 名参加
18) 福島県安達郡 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 4 日 (日) 白沢村総合体育館	58 名参加
19) 埼玉県大里町 (訪問指導型・埼玉 TA 担当)	
平成 17 年 9 月 5 日 (月) 教育委員会親子イキイキ教室	100 名参加
平成 17 年 9 月 12 日 (日) 教育委員会イキイキ教室	
20) 東京都中央区 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 11 日 (土) 東京都立短大体育館	85 名参加
21) 東京都江東区 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 17 日 (土) 有明コロシアム	94 名参加
22) 愛知県名古屋市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 18 (日) テニスアカデミックレセント	31 名参加
23) 鹿児島県鹿児島市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 23 日 (金) 県立鴨池庭球場	77 名参加
24) 三重県鈴鹿市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 9 月 24 日 (土) 鈴鹿スポーツガーデン庭球場	52 名参加
25) 千葉県佐倉市 (訪問指導型)	
平成 17 年 10 月 1 日 (土) NPO ニッポンランナーズ	50 名参加
26) 京都府京都市 (訪問指導型)	
平成 17 年 10 月 8 日 (土) 光華幼稚園 (スーパーインドア)	37 名参加
27) 東京都国立市 (訪問指導型)	
平成 17 年 10 月 15 日 (土) 国立中央児童館	60 名参加
28) 埼玉県熊谷市 (訪問指導型・埼玉 TA 担当)	
平成 17 年 10 月 25 日 (火) 立正幼稚園年長保育授業	70 名参加
29) 福岡県田川郡 (訪問指導型)	
平成 17 年 10 月 26 日 (水) 添田小学校体育授業 1, 2 年	473 名参加
平成 17 年 10 月 27 日 (木) 添田小学校体育授業 3, 4 年	
平成 17 年 10 月 28 日 (金) 添田小学校体育授業 5, 6 年	
30) 神奈川県逗子市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 10 月 29 日 (土) 逗子市体育館	95 名参加
31) 和歌山県海南市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 5 日 (土) 海南市総合体育館	42 名参加
32) 大阪府吹田市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 6 日 (日) 目黒市民体育館	83 名参加
33) 石川県能美市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 19 日 (土) 辰口丘陵公園テニスコート	68 名参加
34) 兵庫県宝塚市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 20 日 (日) 雲雀丘学園体育館	84 名参加
35) 青森県八戸市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 23 日 (水) 南部山健康運動センター体育館	59 名参加
36) 宮城県仙台市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 26 日 (土) ニューワールドテニスクラブ	42 名参加
37) 神奈川県相模原市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 11 月 27 (日) 北総合体育館	110 名参加
38) 埼玉県川越市 (訪問指導型・埼玉 TA 担当)	

平成 17 年 12 月 2 日 (金) かすみ幼稚園	55 名参加
39) 京都府宇治市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 12 月 3 (土) 黄檗体育館	44 名参加
40) 京都府京都市 (一般公募型デモ教室)	
平成 17 年 12 月 4 (日) スーパーインドア	24 名参加
41) 埼玉県大里町 (訪問指導型・埼玉 TA 担当)	
平成 17 年 12 月 6 日 (火) 市田小学校親子 PTA 活動	64 名参加
42) 千葉県千葉市 (訪問指導型)	
平成 17 年 12 月 11 日 (日) おゆみの南小学校	85 名参加
43) 埼玉県川越市 (訪問指導型・埼玉県 TA 担当)	
平成 17 年 12 月 14 日 (水) ひまわり南幼稚園	94 名参加
44) 東京都杉並区 (訪問指導型、親子体験授業)	
平成 18 年 1 月 24 日 (火) 杉並第二小学校	158 名参加
45) 埼玉県川口市 (一般公募型デモ教室)	
平成 18 年 1 月 28 日 (土) 幼稚園連合	77 名参加
46) 和歌山県和歌山市 (訪問指導型・和歌山 TA 担当)	
平成 18 年 2 月 25 日 (土) 三田小学校	
47) 大阪府寝屋川市 (一般公募型デモ教室)	
平成 18 年 2 月 26 日 (日) 旧明德小学校体育館	50 名参加
48) 和歌山県和歌山市 (訪問指導型、体育授業 123 年)	
平成 18 年 3 月 2 日 (木) 吹上小学校	203 名参加
49) 和歌山県有田市 (一般公募型デモ教室)	
平成 18 年 3 月 11 日 (土) 勤労者体育センター	49 名参加
50) 広島県安芸郡海田町 (一般公募型デモ教室)	
平成 18 年 3 月 12 日 (日) 海田西中学校体育館	49 名参加
51) 東京都墨田区 (訪問指導型・総合型地域スポーツクラブ)	
平成 18 年 3 月 19 日 (日) 両国中学校柔・剣道場	68 名参加
52) 奈良県奈良市 (一般公募型デモ教室)	
平成 18 年 3 月 31 日 (金) ダイヤモンド TC 学園前	62 名参加

2. 第 1 回全国小学校別団体対抗戦の開催

平成 17 年 12 月 25 日 (土)、26 日 (日) の両日、東京都中央区総合スポーツセンターにおいて開催し、北は青森、南は福岡まで 35 小学校から 196 名が参加した。

試合結果、マナー、感想文、運動能力テストの結果、以下の 6 選手をマナーキッズテニス大使に任命し、2006 年 6 月下旬、全英テニス選手権 (ウインブルドン) 試合観戦、英国の児童との交流を行う。

マナーキッズテニス大使：

	選手名	ふりがな	小学校名	学年
<男子>	清水 勇輝	しみず ゆうき	杉並区立三谷小学校	4
	福田 翔太	ふくだ しょうた	柏市立松葉第一小学校	6
	伊藤 聡	いとう さとし	国立市立国立第五小学校	6
<女子>	星野 百香	ほしの ももか	熊谷市立久下小学校	5
	大川 詩絵里	おおかわ しえり	名張市立箕曲小学校	6
	久良知 美帆	くらち みほ	添田町立添田小学校	6

平成 18 年 3 月 24 日 (金)、25 日 (土) の両日、千葉県柏市吉田テニス研修センターにおいて事前研修会を開催した。加賀前田家第 18 代当主 前田利祐氏、小笠原流礼法常任理事 鈴木万亀子総師範、吉田記念研修センター理事長 吉田宗弘氏、元ウインブルドン複優勝者 吉田和子様、吉田佐木子様、元デ杯選手 坂井利郎氏、田辺 正氏が講師と

して指導した。

3. 商標登録の取得

平成 17 年 7 月 19 日、「マナーキッズ」及びシンボルマークの商標登録の出願を行ったが、平成 18 年 3 月 10 日付で特許庁より、商標登録証を受領した。

これに伴い、日本体育協会及び JOC 傘下の他スポーツ団体と「マナーキッズ」商標登録のライセンス契約を締結し、「マナーキッズ」の輪を拡げることとなった。

4. 体育授業として開催

平成 17 年 4 月 26 日、東京都杉並区三谷小学校での体育授業採用を皮切りに、福岡県田川郡添田町立添田小学校、及び和歌山県和歌山市立吹上小学校の 3 小学校で体育授業として開催された。三谷小学校では[マナーキッズテニス教室の体育授業採用に伴う波及効果]として、この 1 年間で児童の挨拶をする割合が 36%から 90%に向上した旨、同小学校 PTA から報告され、その内容を杉並区教育委員会が全国市町村教育委員会連合会「会報」5 月号に掲載することになった。

専務理事直轄 倫理委員会（委員長：佐藤 政廣）

1. 倫理規程の作成ならびに制定

本協会は常に公明正大かつ健全化を目指した管理体制と健全な組織運営を図っていく必要があり、役・職員、公認スポーツ指導者、主催・共催等スポーツ競技会、審判員をはじめとする運営関係者および登録者等を対象として、倫理や社会規範に関する意識の啓発と問題の発生を未然に防ぐため、倫理規程を作成、制定した。

専務理事直轄 危機管理委員会（委員長：内山 勝）

1. 有事における危機管理対策の実施

平成 17 年度は危機管理委員会が対応をしなければならない大きな事例は起こらなかったことから、主立った活動はありませんでした。

専務理事直轄 ドーピング判定委員会（委員長：渡邊 康二）

1. WADA、JADA との関連

平成 17 年度における WADA, JADA との関連事業は特になし。

2. ドーピング検査陽性反応者発生時の対応

平成 17 年度における大会でのドーピング検査の結果に陽性反応者はゼロであった。

専務理事直轄 ドーピングコントロール委員会（委員長：助川 卓行）

1. ドーピング検査の実施

1) 全日本テニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間：平成 17 年 11 月 16 日(水)の 1 日

場 所：有明コロシアム(東京都江東区)

対 象：男子選手 6 名 女子選手 6 名 合計 12 名

検査要員：検査員 7 名 助手 10 名 合計 17 名

検査結果：検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費：スポーツ振興くじ(TOTO)の助成を得て、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果：本大会におけるドーピング検査は 8 回目となり、選手達も協力的で特に問

題もなく、円滑に実施することが出来た。

ドーピング検査を受ける選手に対しては、検査完了迄の時間を活用して、アンチ・ドーピングについて個別に解説・話し合いを行った。今回の検査対象となった選手の中に、TUE（治療目的使用の適用措置）の申請を必要とするものがいたが、この申請手続きを全く知らなかったため、詳しく説明のうえ資料を交付した。

また、その対話の中から、選手達のアンチ・ドーピングについての無関心・無知が伺われ、選手層が毎年入れ替わっていく事もあるとは言え啓蒙の難しさを痛感させられた。

しかし、ドーピング検査を実施することが、地道ではあるがアンチ・ドーピング啓蒙の良い機会になっていて、ドーピング検査の回を重ねる毎に、選手・コーチ等の意識は変わってきている。

なお、この検査から使用する用紙が英文(世界統一用紙)に替わったので、検査要員に対する説明には十分な時間をかけた。

2) 全日本ジュニアテニス選手権大会におけるドーピング検査

実施期間：平成 17 年 8 月 7 日(日)

場 所：靱テニスセンター(大阪市西区)

対 象：男子選手 6 名 女子選手 6 名 合計 12 名

検査要員：検査員 9 名 助手 10 名 合計 19 名

検査結果：検査分析結果は、全員”禁止薬物は認められなかった”との判定を得た。

事業の経費：スポーツ振興くじ(TOTO)からの助成を得て、予算内で充実した検査を実施することが出来た。

事業の成果：今回の検査対象選手は、日程と予算の関係により 14 歳以下のシングルスに参加した選手から抽選により 12 名を対象とした。

低年齢であり全員が初めての検査であったので、父兄・コーチに同伴して頂き、検査完了までの時間を活用し、諸資料によりアンチ・ドーピングにつき懇談形式で優しく解説を行った。

特に、父兄・コーチの方々にアンチ・ドーピングについての認識を高めて頂いたように感じたが、検査終了後アンチ・ドーピング諸資料を持ち帰って頂き、友達の手選手にもこの経験を話して頂くようお願いしたので、啓蒙の成果が期待できるものと思われる。

また、本大会でのドーピング検査の実施は、多くの選手・父兄・コーチ等指導者に関心を持って頂く良い機会となり、この面からもアンチ・ドーピング啓蒙の効果があつたものとする。

3) 第 23 回東レ PPO テニスにおけるドーピング・コントロール実施協力

平成 18 年 1 月東京体育館で行われた大会のドーピング検査要員を当委員会から 4 名派遣した。

4) 検査体制を維持充実するため、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)のメディカルオフィサー養成講習会に、委員の推薦と支援を行った。

< 1 > JADA ドーピング・コントロール・オフィサー養成講習会への受講推薦と受講完了者

平成 17 年度 第 1 回養成講習会

開催日：平成 17 年 5 月 22 日(日)

場 所：国立スポーツ科学センター大研修室

受講者：赤池 敦

平成 17 年度第 2 回養成講習会

開催日：平成 17 年 10 月 2 日(日)

場 所：岸記念体育会館地下 3 階講堂

受講者：岩瀬春子・助川のぞみ

< 2 >平成 17 年度末 JADA 認定 DCO

メディカルオフィサー：助川卓行、別府諸兄、及能茂道、石井庄次、奥平修三計 5 名

テクニカルオフィサー：服部雅彦、宮城操、高橋和子、松村佳永子、岡知珠、計 5 名

DOC 受講完了者：菊池哲郎、諸川玄、谷潤子、三谷玄弥、吉崎堅一、白井孝昭、赤池敦、岩瀬春子、助川のぞみ計 9 名

2. アンチ・ドーピング対策

(1)選手等からの照会対応

ナショナル選手やコーチ・選手の家族からの服用中の薬品についての照会や使用可能薬について等諸照会に対応した。

(2)テニスクラブのコーチからの照会

コーチから、中高生の選手にアンチ・ドーピングについて知識を持たせたいとのお申し出があり、選手配布用資料と指導者用資料を送付し、指導を依頼した。

(3)デ杯・フェド杯チーム帯同ドクターに、選手に対するアンチ・ドーピング教育の任務も担って頂くこととした。

それに伴い、フェド杯帯同ドクター金森章浩(医事委員会委員)にドーピングコントロール委員会委員も兼務して頂くこととし、平成 18 年 3 月 15 日に開催された第 12 回常務理事・本部長会議にて「ドーピングコントロール委員会委員追認の件」をお諮り頂き承認された。

(4)TUE(治療目的使用の適用措置)の申請は、所定の書類に医師が詳しく記入することになっているので、去る 3 月 19 日(日)医事委員会全国合同会議(29 名参加)において、テニスの国際大会で使用する書式見本と記入例を配布し、選手から依頼があった場合適切に対応頂くようお願いした。

3. アンチ・ドーピングの啓蒙

(1)平成 17 年 6 月に、新しく作成された「JADA Anti-Doping Guide Book 2005」が、(財)日本アンチ・ドーピング機構から配付された。

この資料を、ドーピング判定委員会とドーピングコントロール委員会委員等 40 名に配付し活用を依頼した。

なお、オリンピック強化指定選手には、この冊子が JADA から直送されている。

(2)JADA からの「最新アンチ・ドーピング関連記事ヘッドライン」配信

平成 18 年 2 月 16 日より、JADA からアンチ・ドーピングに関する最新情報が配信される事となったので、ドーピングコントロール委員会が受信し、関係者に配布することとした。

(3)文部科学省からの「アンチ・ドーピングの教育・啓発活動の実施状況」に関するアンケートに回答した。

その主な内容は次の通りである。

①制作物

- ° 平成 1 年、小冊子「ドーピングの知識」を作成、選手・協会役員に配布。
- ° 平成 11 年に「アンチ・ドーピングカード」を作成、大会時等に選手・役員に配布。
- ° 平成 13 年にリーフレット「アンチ・ドーピングについて」を作成配布。

②記事掲載

- ° 平成 10 年から 15 年の全日本テニス選手権大会のプログラムに、アンチ・ドーピングに関する記事を掲載した。
- ° 平成 9 年の VOL50JTA ニュースにドーピングに関する解説記事を掲載したが、その後も VOL59 まで 7 回にわたり継続的に解説記事を掲載した。
- ° 平成 14 年から JTA ホームページに「ドーピング」欄を設け総合的なドーピングに関する記事を掲載している。

③選手・指導者に対する啓蒙

- ° 平成 9 年全日本テニス選手権大会に於いて、出場選手全員に、体協作成の冊子「アンチ

・ドーピング」を配布。

プレーヤーズラウンジにて、大会期間中体協作成のビデオ「アンチ・ドーピング」を常時放映すると共に、パネル「テニスとドーピング」を掲出。

- ° 平成 10 年全日本テニス選手権大会から毎年ドーピング検査を実施しているが、その機会に、検査対象選手に体協作成の「ドーピング検査 Q&A」「使用可能薬リスト」や、委員会で作成したリーフレット等諸資料を基にアンチ・ドーピングにつき解説している。ドーピング検査は、全日本ジュニアテニス選手権大会でも行い、これまでに 13 回実施しているが、何れも教育の場としてのウェイトが高い。また、平成 10 年度には全日本出場選手に対し、ドーピング検査に関するアンケート調査を実施した。
- ° 平成 12 年、ナショナル強化指定選手合宿時、体協スポ研の雨宮先生を講師にお迎えしドーピングに関する講演会を開催した。
- ° 毎年の公認指導者養成講習会で、アンチ・ドーピングにつき講演している。

以上